

令和6年度 中播磨地域づくり活動応援事業 補助団体一覧

※公表の許可をいただいた団体分のみ掲載しています。

	団体名	事業名
1	青山1000人会	エンディングプラン・サポート(心配事を早めに解決)事業
2	一般社団法人Social Eight	SDGs2024 未来を拓く共創プロジェクト～高校生と企業の協力によるイノベーション～
3	Music & Danceの会	第8回異文化交流会
4	姫路千姫顕彰会	第10回千姫フォーラム
5	増位山伝統文化保存会	増位山から世界へ～日本伝統文化の魅力を発信しよう!
6	大山ブロック地域自治協議会	歴史遺産"大山城"復活プロジェクト
7	プロジェクト東洋	東洋応援プロジェクト
8	公益社団法人姫路青年会議所	学生×企業でツナガル未来～若者パワーで企業の魅力を発信しよう～実践編
9	ひめじSubかる☆フェスティバル実行委員会	ひめじSubかる☆フェスティバル2025
10	ジャコウアゲハが飛び交う街姫路連絡協議会	ジャコウアゲハが飛び交う街「姫路」プロジェクト
11	香寺太鼓	香寺太鼓地域づくり事業
12	北恒屋みつばちプロジェクト	「シン・播磨国風土記 アナシ姫とかかしの里」制作事業
13	はりま・きもりびと	はりまゆずプロジェクト
14	特定非営利活動法人せいばん地域防災防犯支援センター	～姫路の滞在型観光を地域と繁華街で盛り上げる～
15	特定非営利活動法人姫路コンベンションサポート	中播磨 銀の馬車道自然体験プログラム
16	HMJ_act	わいわいしゅくだいカフェ
17	中播磨地区商工会青年部連絡協議会	中播磨の次代を担う子供たちへの産業PRプロジェクト
18	ふるさとかかし親の会	奥播磨かかしの里 フィールドパビリオン推進事業
19	HANDS	ひょうごフィールドパビリオン 在来野菜の「たね」から「食べる」まで
20	ピンクリボンひめじ	プレストアウェアネス(乳房を意識する生活)啓発事業
21	オリヒメジプロジェクト実行委員会	オリヒメジプロジェクト「多様化する社会の中での自己実現」
22	そらにじひめじ	ひめじヒューマン・ライブラリー
23	香寺ごじゃませ実行委員会	こうでらごじゃませふえす
24	置塩城跡を継承する会	戦国の城史跡の歴史を学び置塩城史跡の保存継承事業
25	汐入川をきれいにする会	汐入川の清掃と環境学習
26	寺子屋青山	地域住民参加型 稲作体験プロジェクト
27	播磨の食文化を伝える会	播磨の食文化を伝える事業
28	一般社団法人かみかわ移住定住サポートセンター	空き家見学と有機農業体験ツアー及び日帰り移住体験ツアー

事業報告書

事業の名称	エンディングプラン・サポート（心配事を早めに解決） 事業
ふりがな	あおやませんこんかい
団体名	青山1000人会
事業の枠 ※該当する項目に〇をご記入ください。	<input type="checkbox"/> 一般枠 ・ <input type="checkbox"/> 銀馬車枠 ・ <input type="checkbox"/> 環境配慮枠 ・ <input type="checkbox"/> 子育て枠 <input type="checkbox"/> 万博推進枠 ・ <input type="checkbox"/> ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和6年4月19日（金） ～ 令和7年2月21日（金）
事業の対象区域 ※該当する項目に〇をご記入ください。	中播磨全域 ・ <input type="checkbox"/> 姫路市 ・ <input type="checkbox"/> 神河町 ・ <input type="checkbox"/> 市川町 ・ <input type="checkbox"/> 福崎町 その他（ ）

目的	現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。
	<p>地域課題解決に向けて、次の事業を取り組みました。</p> <p>普段の暮らしの場で一人ひとりが誰かとつながる場を利用して、困っている人をほっとかない支え合いの地域づくりとして、自分らしい人生を過ごすために「人生会議（ACP:アドバンス・ケア・プランニング）」で思いを伝えるプランニングノートを通して将来の変化に備え、その時の医療やケアについて、本人を主体にその家族や近い人々が本人による意思決定を支援する必要性を伝えた。</p> <p>終活については、校区内には一人暮らし高齢者が637人で身寄りのない人やあっても頼りにならない人が多く日常的に相談件数が増加している。そこで、葬儀業者2社にお願いして、エンディングプランをするのか学んだ。次年度も活動を継続していきたい。青山スタイルのエンディングノートを作成したい。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。</p> <p>特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p>
	<p>(1) 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安心して任せられる自分の在宅医を探す」の勉強会を通して終末医療について考える機会を提供した。 ・終活について元気なときに考える機会を提供出来た。 ・自分が何を大切に、どのように生きたいか考える機会を提供出来た。 <p>(2)進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葬儀屋を招き、終活について学ぶ機会を提供できた。 ・医師(医療専門職)から「人生会議」について学び、人生会議の必要性を学んだ。 <p>(3)発信方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と話し合うことで自分一人でないことを体験できた。(孤立・孤独感の解消) ・青山福祉まつりを開催し住民に情報発信することが出来た。(地域の社会資源の理解度を向上させた)
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終活支援の必要性を地域社会に発信出来た。 ・エンディングプランをサポートする必要性を社会に発信できた。 ・人生会議は単に終末期の医療を決めておくのではなく、基本となるのは「自分が何を大切に、どのように生きたいのか」考える仕組み作りを考える機会を提供し孤独や孤立感を和らげることが出来た。 ・今回の事業が、姫路市の高齢者支援施策等への参考になった。

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
4月7日	青山公民館	打合せ		16
5月12日	ゴダイ薬局2階ホール	「交流会安心して任せられる自分の在宅医を探す」交流会 (田村先生・吉村先生・上川先生・松本先生・中村先生)	92	18
6月11日	青山公民館	打合せ		17
6月26日	青山ふれあい広場	終活について(市民葬相談センター)	44	13
7月9日	県営青山第3住宅	終活について(市民葬相談センター)	13	2
7月21日	福祉施設(テクノ)	終活について(姫路セレモニー)	48	12
7月24日	青山ふれあい広場	終活について((姫路セレモニー)	58	16
8月3日	青山ふれあい広場	人生会議について(田村先生)	36	12
8月4日	青山公民館	打合せ		16
8月25日	カーサひまわり	人生会議について(吉村先生)	63	13
8月28日	青山ふれあい広場	人生会議について(田村先生)	39	12
9月8日	青山公民館	打合せ		16
9月10日	県営青山第3団地	終活について(姫路セレモニー)	15	4
9月15日	福祉施設(テクノ)	人生会議について(田村先生)	42	12
9月20日	県営青山第2住宅	終活について(姫路セレモニー)	17	3
9月23日	県営南山住宅	終活について(姫路セレモニー)	19	3
10月23日	青山ふれあい広場	死後事務委託契約等について(司法書士・葬儀屋)	5	2
11月23日	ゴダイ薬局2階ホール	青山福祉まつり(青山地区 福祉関係社など)	170	70
12月~2月	毎月1回定例会議			16
2月9日	青山ふれあい広場	事業振り返り		18
延べ人数			661	291
実人数			170	70

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
青山地区 民生委員児童委員会	人生会議と終活についての参加者募集や当日のお手伝い

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

- (1) 今後の事業展開
地区内の高齢者の居場所を活用し事業を進める
- (2) 自主財源確保の取組等
地域の社会資源に協力を求めコスト削減につとめる。

事業報告書

事業の名称	SDGs 2024 未来を拓く共創プロジェクト ～高校生と企業の協力によるイノベーション～
ふりがな	いっばんしゃだんほうじん そーしゃる えいと
団体名	一般社団法人 Social Eight
事業の枠 ※該当する項目に〇をご記入ください。	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 <input type="checkbox"/> 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和 6 年 4 月 3 日（水） ～ 令和 7 年 1 月 14 日（火）
事業の対象区域 ※該当する項目に〇をご記入ください。	<input checked="" type="checkbox"/> 中播磨全域 ・ 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 <input type="checkbox"/> その他（ ）

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>中播磨地区を中心に地域に根差した事業を行う企業と学生(高校生・留学生)との産学連携による、学生の長期的実践教育機会の提供および企業の SDGs 推進</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>1. 内容</p> <p style="margin-left: 20px;"><中播磨地区を中心に地域に根差した事業を行う企業></p> <p style="margin-left: 20px;">①ノア・インドアステージ、②銀ビルストア、③日章興産、④てんぷら真、⑤117グループあつぷる</p> <p style="margin-left: 20px;"><学生></p> <p style="margin-left: 20px;">①市立飾磨高等学校、②県立姫路商業高校、③相生産業高校、④市川高等学校、⑤県立龍野北高校</p> <p style="margin-left: 20px;">上記の企業と学生が連携し、5グループで、各企業の課題や新規事業(SDGs の取り組み)について 6 月 8 日～12 月 14 日の約 6 か月間、学生と一緒に考えた。プロジェクトの進め方については、神戸国際大学の中村教授に講義およびアドバイスをしてもらい、価値のある産学連携事業となるように努めた。</p> <p>2. 進め方</p> <p style="margin-left: 20px;">以下の流れで本事業を進めた</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 4月3日に中村教授と6か月間のプロジェクトの推進についてすり合わせを行う ● 参加する企業および学生の参加推進を行う ● 6月8日にキックオフミーティングを行い、8月3日の中間発表まで、その後12月14日の最終発表までに、各企業と学生とで適宜グループミーティングを行う。各チームには、Social Eight の松尾・八百などが担当者として付き、事業の進捗確認を行う ● 約 100 名の参加者の前で各チームが中間発表を行い、そこで受けたフィードバックを踏まえ、最終発表までにブラッシュアップする。 ● 最終発表後、中村教授を交えて事業の取りまとめを行う <p style="margin-left: 20px;">また8月3日においては、企業・団体・個人などへ情報発信の提供の場(SDGs 取組への啓蒙活動)として、以下のイベントを実施した。</p> <p>【イベント名称】SDGs2024 未来を拓く共創プロジェクト ～高校生と企業の協力によるイノベーション～</p> <p>【実施内容】以下の4部構成で行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ①高校生等による発表(本プロジェクトの中間発表) ②特別講演 井上祐巳梨による特別基調講演 ③各企業・学校等(エントリー制)による「SDGsの取り組み発表」 ④Social Eight による SDGs の取り組み発表 Himeji 城育など <p>【開催場所】イーグレひめじ・セミナーA</p>

事業の効果	事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生たちが社会と結びつき、実践的に学ぶことで、社会に目を向ける(興味を持つ)きっかけを作る ● 長期的に課題に向き合うことで、深く思考する機会を得て、将来の日本を支える若者の成長の機会につなげる ● 様々な人の前で、伝わるように発表する機会を得ることで、コミュニケーション力を鍛える ● 中播磨地域における産学連携の推進事例を作り、今後更なる機会の創出につなげる ● SDGs の取組がより身近なものとして、だれもが取り組める意識を持つことで、地域活性へとつなぐ。 ● 学生などの新しい考えを取り入れることで、SDGs による新しいビジネス展開による価値観の創造を行う ● 異業種の取り組み等を知り、企業の SDGs 推進につなげていく。 <p>未来を拓く高校生と共創する企業の新たな SDGs の取り組みを通じて、実際に取り組む高校生・企業だけでなく、中播磨地域を支える企業・団体・個人も新たな気づきや成長の機会を得て、地域活性が拡大してくことに貢献できたと考える。また一般社団法人として、創業企業から老舗企業や大企業と多世代、異業種が交流する中で、プロフェッショナルと共に新たなサービス、価値を創出していきました。この事業の取り組みも広く知ってもらい、誰しもが参加できるしくみづくりを今後作っていきたいと考える。</p> <p>来年度以降も同様の活動をして、団体メンバーだけでなく、参加者を一緒に、よりよい社会を目指し取り組んでまいりたいと思う。</p>

事業の経過				
事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。				
月日	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
4月3日	神戸国際大学	中村教授とのプロジェクト構築打ち合わせ	1名	2名
4月上旬以降	姫路	参加企業への趣旨説明	13名	2名
4月上旬以降	姫路	参加する学生の参加推進	10名	2名
6月8日	イーグレ姫路	参加企業・学生・中村教授によるキックオフミーティング	30名	5名
適宜開催	姫路	参加企業・学生によるミーティング	30名	5名
8月3日	ビズスペース	中間発表会・基調講演・取り組み発表会	120名	30名
適宜開催	姫路	参加企業・学生によるミーティング	30名	5名
12月14日	イーグレ姫路	最終発表会	60名	8名
1月14日	神戸	中村教授との事業とりまとめ	1名	2名
延べ人数			295名	61名
実人数			131名	30名
連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。				
協働先		協働内容		
姫路商工会議所		後援による告知支援		
今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。				
<p>Social Eight は、「持続可能な地域社会の発展・社会課題解決事業を創出すること」を目的として活動している。今後も、高校生と企業が連携した事業を始め、さまざまな取り組みを展開していく。</p> <p>Social Eight の財源は、会員の年会費である。様々な事業を通じて、メンバー拡大を目指し、財源確保を図る。</p>				

事業報告書

事業の名称	第8回異文化交流会
ふりがな	みゆーじっくあんどだんすのかい
団体名	Music&Danceの会
事業の枠 ※該当する項目に○をご記入ください。	<input type="checkbox"/> 一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 <input type="checkbox"/> 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和6年6月1日（土） ～ 令和6年10月2日（水）
事業の対象区域 ※該当する項目に○をご記入ください。	<input type="checkbox"/> 中播磨全域 ・ <input type="checkbox"/> 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他（ ）

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>1 異文化を実践し発表する場が少ない。 → 発表の場を設ける。 2 世間には、異文化に対する誤解や偏見がある。 → 発表の場に参加することで、異文化を直接知り、誤解や偏見が少なくなる。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>1 異文化団体(8団体)による各単独ステージ(各団体 13～18分間) 2 今年初めて、アンデス地方の楽器ケーナを紹介した。(「たつのケーナの会」の演奏をした)。 3 人気のコラボステージでは、ベリーダンスと男声四部アカペラ合唱を行い好評であった。</p>
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p> <p>1 異文化への誤解、偏見が減少しつつあり、逆に異文化へのあこがれが強くなっている(アンケート結果(毎年)から) 2 人気のコラボステージへの参加希望が増えてきた。 (既に、次回はフラメンコと箏曲のコラボが決定。) 3 他の異文化団体から、出演問い合わせや、出演希望が年々増加傾向である。 (6～8団体出演予定のところ、20団体以上から出演希望有)</p>

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月日	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
6月1日	豊田宅	チーフスタッフによる第8回異文化交流会基本計画(案)を作成	会員3名	1名
8月21日	ひめじキャスパホール	キャスパホールとの打合せ ①当日進行(舞台進行、控室等) ②音響・照明	会員2名	2名
8月30日	城の西公民館	スタッフ打合せ ①当日進行 ②スタッフ役割決定と依頼等	会員10名	11名
9月23日	ひめじキャスパホール	9:00-9:30 舞台等準備 9:30-12:00 リハーサル 12:30 開場 13:00-16:00 本番 16:00-16:10 全体写真 16:10-17:00 後片付・撤収	会員10名 出演者108名 観客251名	11名
10月2日	城の西公民館	1 反省会 2 収支報告 3 次回への課題・対策	会員10名	2名
延べ人数			394名	27名
実人数			369名	11名

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
姫路英語多読の会	外国人の対応

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

- (1) 今後の事業展開
異文化紹介とコラボも続けていく
- (2) 自主財源確保の取組等
自主財源は①協賛者の増、②費用の削減であるが、来年度キャスパホールの使用料(会場、音響照明 etc)が2割UPで、補助金「0」になった場合、交流会存続が難しくなってくるのが予想される。

事業報告書

事業の名称	第10回千姫フォーラム
ふりがな	
団体名	姫路千姫顕彰会
事業の枠 ※該当する項目に○をご記入ください。	○ 一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和 6年 4月 3日 (水) ～ 令和 6年 12月 25日 (水)
事業の対象区域 ※該当する項目に○をご記入ください。	○ 中播磨全域 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町、北播磨 その他 (県外千姫ゆかりの地)

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>姫路城が世界遺産に登録され 30 年になるが外国人の観光客ばかり増えたが地元の市民や若者たちの来場はまだ少ない。姫路城の歴史を知っていただくには姫の中の千姫を大河ドラマに取り上げていただくのが効果的である。</p> <p>千姫ゆかりの地と連携して活動も盛り上がってきているので大河ドラマ実現まで広く市民を巻き込み行政と共に頑張りたい。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>千姫大河ドラマを多くの市民に呼びかけるために 4 月には会員を中心に千姫のゆかりの地巡りを実施。5 月にお城まつり歴史パレードに参加し広く活動を呼びかけました。</p> <p>12 月にはアクリエ姫路で千姫フェスタ第 10 回千姫フォーラムを開催。千姫の新曲を作りフォーラムで披露しゲストを招き千姫コンサートとトークショー実施。アクリエ中ホールの会場費と講師謝金は姫路市負担です。講師の磯田道史氏の人気もあって 4 倍もの申し込みがありました。フォーラム終了後千姫顕彰会結成 10 周年を祝い、まねき食品においてパーティーを開催しました。33 名の参加を頂き活動の継続を再確認しました。</p>
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p> <p>千姫顕彰会の運動が播磨全域から全国のゆかりの地へと広がっています。</p> <p>市民のみならず多くの方々に千姫と姫路城の魅力を理解いただき口コミで観光客も増えています。</p> <p>今年度 12 月に姫路市主催で姫路文学館において 20 日間、千姫展も開催され多くの方にお越しいただきました。千姫フォーラムの参加者に姫路千姫顕彰会の活動を紹介し会員となって一緒に活動していただけるよう呼びかけました。</p>

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
4月11日	三重県伊勢市	千姫ゆかりの地巡りバスツアー	33名	9名
5月18日	姫路大手前通	姫路お城まつり歴史パレード参加	40名	10名
12月8日	アクリエ姫路	千姫コンサート、トークショウ	700名	15名
			延べ人数	
			実人数	773名
				34名

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
播磨の黒田武士顕彰会	お城まつりパレード応援参加

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

顕彰会の個人会員、法人会員の増強
メイン事業を姫路市と共催で開催。

事業報告書

事業の名称	増位山から世界へ ～日本伝統文化の魅力を発信しよう！
ふりがな	ますいざんでんとうぶんかほぞんかい
団体名	増位山伝統文化保存会
事業の枠 ※該当する項目に○をご記入ください。	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和 6 年 7 月 3 日 (水) ～ 令和 7 年 2 月 2 日 (日)
事業の対象区域 ※該当する項目に○をご記入ください。	中播磨全域・ <input checked="" type="checkbox"/> 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他 ()

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>増位山には歴史と文化の貴重な資源が点在している。しかし、50 年前に姫路市と姫路中央ライオンズクラブにより開発事業としてハイキングコース、梅林整備が行われた際には、歴史・文化の資源についての配慮が払われることはなく、今では増位山の歴史を知る地域住民は高齢化が進み、若い世代のライフスタイルや価値観が変わり、増位山を訪れる人も少なくなった。</p> <p>この現状を改善する試みとして、地域の学生や住民を対象に下記の企画(講演会・展示、ワークショップの開催、パンフレット作成・配布)を実施し、興味や関心を抱く機会をつくることで埋もれていた資源の魅力が再発見され、貴重な地域の資源として有効な活用方法・手段を構築することを目的とした。また、伝える対象を海外からの観光客に広げることを目指した。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>(1)内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和7年4月開催の大阪万博に来日する海外からの観光客を視野に入れ、体験型ツーリズムの受け皿となる講演会と展示会、ワークショップの実施、案内パンフレット(英語・日本語表記)の作成。 <p>(2)進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講演会「増位山の至宝」と展示会(随願時に伝わる「源氏手鑑」54帖を11枚A3サイズ拡大印刷して会場内に展示) 於 姫路文学館 2. ワークショップ実施 <ol style="list-style-type: none"> 1回目 坐禅・写経体験(英語と日本語の説明書を用意)対象 地域住民 於 増位山 随願寺本堂・会館 2回目(松尾芭蕉の蓑・笠・木像)観覧・講演「松尾芭蕉と俳諧道場 風羅堂」 対象 地域の中・高校生・地域住民 於 増位山 念仏堂 3. パンフレット(英語・日本語表記)作成 英語翻訳は、姫路市国際交流センターの国際交流員のスミスさんの協力が得られた。 <p>(3)発信方法 パンフレット(英語・日本語表記)の作成・配布</p>

事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p>
	<p>1、地域の公民館の各種講座（俳句 書道 着付 など）受講生、増位中学校 琴丘高校（国際文化科）の生徒にチラシ（講演会・展示 1・2回目ワークショップ）を配布して参加を呼びかけた。その後、パンフレットを配布し増位山の歴史と文化を詳しく伝えた。講演会参加者のアンケート回答や、ワークショップ参加後の感想では、「知らない事ばかりだった」、「興味深かった」「楽しかった」といった声が寄せられたことが、当団体の活動を推進する原動力となっている。</p> <p>2回目ワークショップでは、資料の発見があった。それは風羅堂で行われていた当時の句会には参加者が円座を組み連歌を詠み、その際には役割が決められていたと講師の話聞いて加藤住職が芭蕉木像の帽子に入っていた「宗匠 脇宗匠 執筆 香司 座見」と人名が記載された折紙を提示された。その資料については、姫路市教育委員会文化財課の宇那木隆司さんに報告した。</p> <p>上述した講演会、1・2回目ワークショップの参加者は、当初予定した留学生や在日外国人の参加はなかったが、パンフレットの翻訳を担当された姫路国際交流センターのスミスさんが増位山随願寺の鬼追い（令和7年2月11日）に加藤住職の招待を受けて一日参加された。</p> <p>2、地域で活動中の各種団体（英語ガイド、ボランティアガイド、山城ツアーガイド）にワークショップの参加を呼びかけると各団体から参加者があり、興味と関心を示されたので今後の活動の連携を提案することが出来た。</p> <p>3、鎌谷道夫さんが、講演会と1・2回目ワークショップ開催時に写真と共に定点カメラでビデオも撮影され編集後DVDを1回目ワークショップの指導者の加藤住職と2回目ワークショップの講師難波正司さんに無償提供された。</p> <p>4、チラシとパンフレットを姫路中央ライオンズクラブに配布し、当団体の令和6年度活動内容を伝えた。</p> <p>5、ワークショップの資料・パンフレットを姫路市観光局、コンベンションビューローに提供し、観光地域づくり・インバウンド部の浦上係長に増位山が姫路観光の観光ルートに加えられることを提案した。</p>

事業の経過				
事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。				
月日	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
7月3日	姫路自治福祉会館	打ち合わせ 講演会会場予約 講演会チラシ・展示印刷の原稿準備と内容確認		6
7月9日	アークオアシス姫路	講演会チラシ1,000枚・展示用拡大印刷54枚 発注		5
7月18日	増位中学校・琴丘高校・砥堀公民館	チラシ配布依頼 WS(1・2回目)参加依頼		3
8月24日	姫路文学館	講演会・展示実施の打ち合わせ 会場下見 当日実施するアンケート(100枚)作成・印刷		3
9月8日	姫路文学館講堂	講演会「増位山の至宝」・展示会(源氏手鑑 54枚)講師 兵庫県立大学講師 宇那木隆司さん 司会者 鎌谷泉さん 技術者(パワーポイント映写、プロジェクター・PC/ポインター機材持参、講演会・展示の写真撮影)鎌谷道夫さん	88	7
10月16日	随願寺会館	講演会・展示実施アンケート回答のまとめと反省 1回目WS 坐禅・写経体験実施の打ち合わせ・準備 WSチラシ(1,2回目 各3,00枚)印刷後、配布		6
11月8日	随願寺本堂・会館	1回目WS 座禅・写経 指導 加藤住職(日本語と英語の説明書を用意) 写真撮影(Ws・記録報告用) 鎌谷道夫さん	18	4
11月12日	随願寺会館	1回目WSの反省会 2回目WSの打合せ・準備		6
12月8日	増位山 念仏堂	パンフレット原稿(日本語)「松尾芭蕉と俳諧道場 風羅堂」を難波正司さんに依頼。 2回目WS「松尾芭蕉と俳諧道場 風羅堂」講師 俳諧史家 難波正司さん 写真撮影(Ws 記録報告用・パンフレット用) 鎌谷道夫さん	23	4
12月13日	イーグレひめじ 国際交流センター	2回目WS 反省会 パンフレット作成の打ち合わせ 英語訳を姫路市国際交流センター 国際交流員スミスさんに依頼。		3
2025年 1月9日	アークオアシス姫路	パンフレット1,000部 印刷発注		2
1月20日	姫路自治福祉会館	パンフレット配布・発送		6
2月2日	姫路自治福祉会館	反省会		6
			延べ人数	129
			実人数	104
連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。				
協働先		協働内容		
じろはったんの会		講演会・展示のチラシ原稿の校正・配布展示の準備 1・2回目ワークショップのチラシ配布、会場準備 パンフレット構成・原稿校正・配布		
今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。				
<p>1、令和7年度の事業は、地域の増位中学全校生と保護者を対象に中学校講堂で、「増位山の歴史と文化」の講演を姫路市教育委員会文化財課の宇那木隆司さんを講師に迎えて実施予定。</p> <p>2、昨年2月に豊臣秀吉が信長に宛てた手紙の下書き(三木城攻略の報告)が見つかり、兵庫県立歴史博物館に寄託されている。戦国時代信長軍に加担していた三木城主 別所長治は当時増位山に36坊あった寺院を焼き討ちした史実を(仮)「増位山の歴史 火炎の章 ～別所長治の焼き討ち」の講演を歴史博物館で前田学芸員を講師に依頼し実施予定。</p> <p>3、パンフレット(戦国時代増位山に建造された地蔵院城 有明山城を紹介)を作成予定。</p> <p>今後の自主財源確保については、地域の企業、団体に当団体の取組みを紹介(令和5・6年度に作成した講演会・ワークショップのチラシ、レジメやパンフレットの資料の提示と提供)して支援を呼びかける。</p>				

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月日	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
5月3日	自治協事務所	登山大会の事前打ち合わせ		9名
5月18日	大山城跡周辺	道標・標識の確認チェック		4名
5月26日	大山城跡	春季登山大会(ガイド:山城愛好家 喜多宏高)	19名	4名
6月2日	自治協事務所	講演会及び今後の事業打合せ		9名
7月28日	杉宮農センター	講演会「大山地域の歴史～大山城の歴史を交えて」 (講師:郷土史研究 羽戸 尊比古 氏)	35名	8名
9月14日	大山城跡周辺	伐採のエリア確認、標識のチェックなど		4名
9月20日	自治協事務所	事業実施状況の確認・打合せ		9名
9月29日	大山城跡周辺	城郭研究家 本岡 勇一 氏 現地来訪		5名
10月5日	大山城跡周辺	伐採確認など		4名
10月15日	業者事務所	パンフレット・のぼり旗最終打合せ		2名
10月20日	大山城跡周辺	南あわじ市(神河町姉妹市)生涯学習生徒登山大会	20名	5名
10月27日	自治協事務所	秋季登山大会及び残事業並びに7年度計画打合せ		10名
11月2日	大山城跡周辺	登山事前確認		3名
11月10日	大山城跡周辺	秋季登山大会(ガイド:中世城郭研究家 木内内則 氏)	40名	7名
12月8日	町内各所	パンフレット配布(観光協会、公民館、市川山城協会など)		1名
7年2月20日	自治協事務所	自治協理事会(7年度計画等の打合せ)		10名
7年3月2日	自治協事務所	6年度事業取りまとめ(実績報告の作成)		3名
		延べ人数	114名	97名
		実人数	114名	20名

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
杉区地域サロン推進委員会	登山大会への協働参加 標識の設置作業への参加

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

地域の活性化を図るため銀の馬車道沿いにある山城が連携して、生野城を起点とした戦国ロマン漂う狼煙リレーなどを実行してはどうかとも考えます。

事業報告書

事業の名称	東洋応援プロジェクト
ふりがな	ぶろじえくととうよう
団体名	プロジェクト東洋
事業の枠 ※該当する項目に○をご記入ください。	○一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 ・万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和 6 年 4 月 8 日(月) ～ 令和 7 年 3 月 10 日(月)
事業の対象区域 ※該当する項目に○をご記入ください。	○中播磨全域・ ○姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他()

目的	現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。
	<p>地域にとって第一次産業の維持、発展および地域環境の保全のため休耕田の活用、害獣対策などが必要である。また、次世代を担う若者たちが地域の方々と共に協力し何かを成し遂げる機会や世代間で交流を持つことが大切である。地場産業の認知度を上げ、伝統工芸や伝統文化を次の世代に伝えることも大切である。特に、農業の担い手不足と高齢化の問題は、改善が見られず休耕田の増加や荒廃農地が増え深刻な問題である。農家が減ると、農作物の生産が減り、食料自給率も下がる。食料自給率が低いということは、輸入に頼りフードマイレージが高くなる。エネルギーや燃料の使用が増え、二酸化炭素の排出量が増えて環境汚染や地球温暖化の加速にもつながる。また、わが校の生徒も輸入された小麦を使ったパンの食事が多く、高校生による米離れは深刻である。これらの事から、高校生に休耕田の利用や農業、米食の意識付け、SDGs に関心を持つ取り組みを行った。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p>
	<p>(1)内容</p> <p>地域住民の方々と連携を図り休耕田を利用して高校生が米や農作物を作り、それらを利用して各種商品開発に取り組み、地域の特産品作りを目指した。米作りや野菜の栽培を行う中で、活力ある地域づくりに貢献するとともに地域との交流を深めることで地域が活発になった。</p> <p>① 今年度も米の消費量を上げるため休耕田の田んぼ 2 枚を借り入れ、高校生が米作りを体験して稲作文化を継承した。昨年は、伝統的な米作り(手で苗を植え、鎌で稲を刈る)をしたが、これでは重労働で米作りが継続できない。そこで、今年度は、持続可能な米作り(スマート農業)を行った。生徒が考案している除草ロボットも完成間地かになった。苗は、育て方を研究するため高校生が種を植え、栽培に挑戦した。また、稲が元気に育つ土づくりをするため、「たい肥」や「土を改良する成分」など考え、SDGs の観点から環境保全型農業で環境にやさしいものを使い広めた。また、その肥料の量も研究し最善な量を考えることができた。収穫したコメは、米粉にして米粉入りうどんを製作し特産品化を目指した。</p> <p>② 農作物栽培では、これまで通り化学肥料や農薬に頼らない環境に配慮した持続的な農業を行った。堆肥を枯れ草や枯れ葉、落ち葉や鶏ふん、牛ふん、食堂の食べ残しや野菜くずなどを堆積して発酵させ使用し、安心安全な野菜を栽培した。栽培には、既存の特産品の野菜をはじめ、姫路の伝統野菜、妻鹿メロンを育て書写の観光に一役担う特産品化を目指した。</p> <p>③ 害獣については、これまで通り貴重な地域資源になることを地域に発信し、野生動物の適切な利用を通じた自然活用型社会を目指し普及啓発をした。鹿革を地場産業である皮革とコラボレーションし、人々の暮らしの中で必要とされる製品を考え、商品を生み出し、書写地区の鹿を利用した特産品があると広めた。捕獲された鹿が食肉だけでなく皮や骨など他の部位も利用価値があることを継続して提案した。</p> <p>④ 山のようになった雑木林の活用を考えた。雑木林が増える中、高校生が整備した。</p>
業事	事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。

休耕田を利用して米作りや野菜作りを实践することで、日本の伝統を守り持続可能な農業に興味を持つ若者が増えた。また、これらを地域に提案することで、新たな農家が増えた。そして、野菜の収穫物による商品開発の継続と地域の方々との共同作業による世代間交流は、地域活性化に繋がっていった。商品開発では、若者の感性で味付けやラベルをすることによって新たな米粉うどんが完成した。農家の方と協働することによって若者の得意分野であるICTを用いた広報ができ、農家の方々から経験による米苗の種まきなどの知識を伝授していただき若者の財産にもなった。また、地域の方々との収穫祭は、コミュニティが広がった。

地域で捕獲された害獣である鹿を利用することで、地域の強みとなる資源になり、商品やサービスの開発・生産を行うことで需要の開拓にも繋がりが、鹿の付加価値を高めることになった。捕獲された鹿が山中で廃棄されていることも少なくなるとともに、狩猟者の捕獲意欲の向上にもつながった。話題になれば、各地に埋もれている地域資源のさらなる発見にも繋がりが循環型社会を考える機会になった。鹿革商品の製作は、姫路地場産業である皮革産業が、高校生の斬新なアイデアによって若者の中にも浸透し脚光を浴びた。高校生は、姫路を研究することで伝統工芸品を知る機会を持ち文化を継承することの大切さを知ることができた。

そして、イベント等に参加して開発した商品をPRし、普及活動を行い、生徒たちが手掛けた特産品が認知されることで、地域活性に繋がりが、地域に対する愛着も増した。地域住民の方々との交流から自己肯定感が持て、地元へ貢献する人材育成にも繋がった。

また、活動から、第一次産業や皮革産業、SDGs やカーボンニュートラル、エシカル消費に関心を持ち、自分にできることを見つけ実行できる高校生が増え、地域の方々も持続可能な社会を考える機会を作った。高校生の知恵でいろいろな媒体を使いながら、取り組みを発信し多くの方々に休耕田の利用法や工夫を凝らした持続可能な農業を伝えたと思われる。

事業の経過				
事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。				
月日	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
4月3日～	地域の田んぼ、畑、校内	田んぼ、畑の土作り、肥料作り、姫路若菜などの種まき、鹿革商品製作、除草ロボット製作	3名	25名
5月1日～	地域の田んぼ、畑、校内、雑木林	米の種まき、野菜作り、鹿革商品製作、雑木林の手入れ、除草ロボット製作、妻鹿メロンづくり勉強会	10名	25名
6月1日～	地域の田んぼ、畑、校内	田植え、野菜作り、除草ロボット製作	15名	35名
7月1日～	地域の田んぼ、畑、校内、播産館	田畑の手入れ、妻鹿メロンによる特産品づくり検討・開発(洋菓子店に提案)、販売体験、街頭アンケート、除草ロボット製作、既存商品(アイス、甘酒)の見直し・研究	5名	18名
8月1日～	地域の田んぼ、畑、校内、兵庫県立大学	田畑の手入れ、除草ロボット製作	5名	18名
9月1日～	地域の田んぼ、畑、校内	田畑の手入れ、米による特産品づくり検討・開発、除草ロボット製作	3名	18名
10月1日～	地域の田んぼ、畑、校内	地元の方々との稲刈り、米による特産品づくり検討・開発、除草ロボット製作、SDGs フェスティバル開催	15名	18名
11月1日～	地域の田んぼ、畑、校内	野菜作り、米による特産品づくり、ラベル作り、藁の利用を提案・製作、除草ロボット製作	10名	18名
12月1日～	地域の田んぼ、畑、校内、播産館	販売体験、街頭アンケート、野菜作り、米による特産品づくり、藁の利用を提案・製作、除草ロボットの製作	5名	18名
1月1日～	地域の田んぼ、畑、校内	野菜作り、米による特産品(米粉うどん決定)、除草ロボット中間発表会	5名	18名
2月1日～	地域の田んぼ、畑、校内	野菜作り、米粉うどんパッケージ作り	5名	18名
3月1日～ 10日	地域の田んぼ、畑、校内	取り組みの評価検討会、次年度の取り組みについて検討	10名	18名
延べ人数			91名	247名
実人数			38名	35名
連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。				
協働先		協働内容		
播産館		特産品開発の販売・評価		
今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。				
<p>姫路の地場産業を守り発展させていく活動を行っていった。そして、休耕田を利用し、環境に配慮した農業を提案し、栽培した米や野菜で新たな商品開発をするとともに、世代間交流をして持続可能な社会を目指すため、地域の方々共同作業を増やし、地域行事へも積極的に参加して地域に伝わる伝統や文化を受け継いで守っている。将来、姫路市の発展に寄与してくれる若者を育て、農業をしたい若者を増やした。自主財源確保は、高校生の活動が広く知れ渡り応援していただく方々から寄付を募る試みを展開している。</p>				

事業報告書

事業の名称	学生×企業でツナガル未来～若者パワーで企業の魅力を発信しよう～実践編
ふりがな	こうえきしゃだんほうじんひめじせいせいのんかいぎしょ
団体名	公益社団法人姫路青年会議所
事業の枠 ※該当する項目に〇をご記入ください。	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和6年4月10日(水) ～ 令和6年12月31日(火)
事業の対象区域 ※該当する項目に〇をご記入ください。	中播磨全域・ <input checked="" type="checkbox"/> 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他 ()

目的	現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。 進学や就職期のUターンの減少から、若者世代が地方から都市部へ移り住む傾向にあり、姫路から次世代のリーダーとなりうる人財が減少しています。学生が様々な分野で活躍している人財と交流することで地域への愛着をもっていただき、将来姫路のリーダーとして魅力を発信できる人財の育成をする必要があります。 そこで、学生(高校生、大学生)が、姫路に根差した企業や人財と交流しその魅力を深く理解するとともに、その魅力を発信するスキルを学ぶことで、学生を次世代の姫路のリーダーへと育成することを目的に事業を実施しました。
	具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。
内容	(1)概要 本事業は、高校生・大学生が、姫路市に根差し、地場産業を営む企業と協力して、「Himeji JC スマイルフェスタ 2024」(以下「スマイルフェスタ」といいます)(※)の来場者に対し、その企業の魅力を発信する事業です。具体的には、高校生・大学生が、研修、企業との打合せ、企業訪問等を通じて、企業の商品やサービスの魅力を学び、学生の新たなアイデアを加えてPR方法を考え、実際に来場者に販売・提供しました。 ※スマイルフェスタ...2024年9月21日(土)及び9月22日(日)に、大手前公園にて、「彩り豊かなめっちゃええまち」をテーマに、姫路市内外の市民を集め、ステージ発信、ブース出展、キッチンカーによる飲食物の提供等をした事業です。当日は、24,300名の参加者が来場しました。
	(2)具体的な内容 ① 学生を6チーム(1チーム3～4名)に分け、6つの企業(株式会社山陽、株式会社姫路生花卸売市場、堀忠水産株式会社、村井製菓株式会社、有機農園ばんごんじんじい、株式会社棉屋)とそれぞれマッチングし、指導・協力する企業を定めました。 ② 次のとおり研修を行いました。 I 6月15日 導入、講師によるインタビューの技法の研修 II 7月27日 企業との打合せ、講師によるキャッチコピーの作成についての研修 III 8月10日 スマイルフェスタで行う魅力発信の計画の作成・発表(プレゼンテーション) IV 9月28日 スマイルフェスタで行ったことの振り返り ③ ②の研修の間に各チームごと企業と打合せを行うとともに、各2回程度企業訪問を行いました。 ④ スマイルフェスタ(9月21日及び9月22日)においてチームごとブースを設置し、企業とともに考案した商品やサービスを提供することで、実践的に各企業の魅力を発信しました。また、2回目の研修において考案したキャッチコピーを掲示するとともに、高校生・大学生が自ら接客することで、主体的にPRを行いました。 当日は、本事業のブースに約1460名の市民が来場しました。
事業の効果	事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。 高校生・大学生が、研修、企業との交流、市民相手の実践の場を経験することで、自身の各企業の魅力を引き出し、PRするスキルを磨くとともに、姫路に根差した企業の魅力を深く理解することができました。参加した高校生・大学生が、将来姫路という地域に愛着を持ち、姫路を活性化させるリーダーに成長するきっかけを創ることができたのではないかと考えます。

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
4月10日～ 6月14日	市内の高校・大学	ポスターの配布、参加動員の依頼		16名
6月15日	姫路商工会議所	第1回研修(導入、講師によるインタビューの技法の研修)	19名+6企業	40名
6月16日～ 7月26日	各企業	学生による企業訪問	19名+6企業	16名
7月27日	姫路商工会議所	第2回研修(企業との打合せ、講師によるキャッチコピーの作成についての研修)	19名+6企業	28名
8月10日	姫路商工会議所	第3回研修(スマイルフェスタで行う魅力発信の計画の作成・発表(プレゼンテーション))	19名+6企業	29名
8月11日～ 9月20日	各企業	学生による企業訪問	19名+6企業	16名
9月21日～ 9月22日	大手前公園	スマイルフェスタ内にて各企業の魅力発信(商品・サービスの販売・提供、またそのPR) ※(スマイルフェスタ全体では2万4300名)	19名+6企業	37名
9月28日	姫路商工会議所	参加した学生・企業によるスマイルフェスタでの魅力発信の振り返り	19名+6企業	28名
11月5日	姫路商工会議所	委員会での報告議案(事業の反省点や引継事項等を記載したもの)の審議		16名
11月27日	姫路商工会議所	理事会での報告議案の審議可決		24名
延べ人数			133名+42企業	250名
実人数			19名+6企業	40名

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
株式会社山陽	学生が取り扱う商品・サービスの提供、打合せ・企業訪問等における学生の指導、実践する際の補助等
株式会社姫路生花卸売市場	学生が取り扱う商品・サービスの提供、打合せ・企業訪問等における学生の指導、実践する際の補助等
堀忠水産株式会社	学生が取り扱う商品・サービスの提供、打合せ・企業訪問等における学生の指導、実践する際の補助等
有機農園ばんごんじんじい	学生が取り扱う商品・サービスの提供、打合せ・企業訪問等における学生の指導、実践する際の補助等
村井製菓株式会社	学生が取り扱う商品・サービスの提供、打合せ・企業訪問等における学生の指導、実践する際の補助等
株式会社棉屋	学生が取り扱う商品・サービスの提供、打合せ・企業訪問等における学生の指導、実践する際の補助等

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

今回の事業の反省点は全て報告議案を作成し引き継いでおり、その点も踏まえ、来年以降も青少年育成事業を積極的に行っていきたいと考えます。

また、協働団体との良い関係性を築くことができたので、青少年育成事業に限らず、その関係を活かした事業を展開していきたいです。当青年会議所は、収入の多くを会員の会費によって賄っているので、自主財源確保の問題は生じにくいといえます。

事業報告書

事業の名称	ひめじ Sub かる☆フェスティバル 2025
ふりがな	ひめじさぶかるふえすていばるじゅういんかい
団体名	ひめじ Sub かる☆フェスティバル実行委員会
事業の枠 ※該当する項目に○をご記入ください。	○一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和 6 年 7 月 1 日(月) ～ 令和 7 年 3 月 10 日(月)
事業の対象区域 ※該当する項目に○をご記入ください。	中播磨全域・姫路市・○神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他()

目的	現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。
	<p>近年、クールジャパンと表される近代文化、特にサブカルチャーと呼ばれる分野の文化が日本全国で注目されています。アニメーションや漫画、模型、ラジコン、ご当地アイドルなどすそ野も広く、いろいろな世代に親しまれています。最近では日本で製作されたものが海外で受け入れられ、新しい文化として輸出されるまでとなっています。それらに着目した自治体などは地域の活性化につなげようと動かれております。</p> <p>同様の事業はテレビやマスコミに取り上げられるほど巨大なマーケットになっている一方、地方ではあまり取り上げられていません。姫路市では40年以上も続くサブカルチャー文化がありますが、個人が主体となった事業がほとんどで、その魅力を発信するまでには成長しておらず、また発信する場もあまり確立されておりません。多くの地元活動家は活躍する場を大都市に求め市外へ流出しております。それらが発信する熱量をみすみす大都市へ放出して、地元に戻元できるモノを失っているのが現状です。</p> <p>姫路市内を中心にサブカルチャー文化の流布に努める。まずは中心部でのイベント等でサブカルチャーの魅力に触れていただき、姫路の持つチカラを再確認しました。</p> <p>そして街全体で新しい文化を創造し、それらに価値を見出し、そして幸せを感じ取れるようにする。街中での交流を深めていき、『魅力のある街 姫路』に向かって行く。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>『ひめじ Sub かる☆フェスティバル』においてサブカルチャーの魅力に触れてもらう。 内容として、市内中心部の公園においてコスプレイヤーの交流、痛車展示、地元アイドルのステージ、鉄道模型、プラモデル展示、ミニ四駆といったサブカルチャー文化の発信をおこないました。 また、同時に姫路バーガー博覧会も開催しました。これにより一般の方の集客につながり、サブカルチャーを身近に感じて頂く一歩となりました。</p> <p>姫路市主催の「大阪・関西万博 PR パレード」にコスプレイヤーや、ご当地アイドル「KRD8」「WT ☆Egret」が参加をおこない、神戸新聞に大きく取り上げられました。</p> <p>情報発信としては、個人では Facebook や Twitter などの SNS に始まり、地元ケーブルテレビ、FM 放送と広げ、数多くの方々の目に触れる機会をつくりました。</p> <p>また、姫路の食・サブカルチャーのブース出展もおこない、県外また海外から来られた姫路城への観光客に対しても姫路のおもてなしをおこないました。</p> <p>それにより、市内はもとより市街、県外からの来訪者を迎え入れ、姫路の新しい魅力としてサブカルチャー文化を確立いたしました。</p> <p>協働する PIECE には、コスプレイヤーの募集、当日の運営にご協力いただきました。 0 スタートプロジェクトには、ステージ運営を、痛車チーム bonds には、痛車の当日配置等ご協力いただきました。</p>
	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p> <p>3月1日、2日の2日間にかけて10回目となるひめじ Sub かる☆フェスティバル 2025 を開催いたしました。のべ約30,000人の人が訪れ、無事に開催することができました。</p> <p>痛車100台、コスプレイヤー1,000名が姫路の城下町に登場し、姫路を訪れる人ならびに参加者にサブカルチャーを印象づけられたと考えています。</p> <p>姫路市内2校の軽音楽部に声をかけ、高校生の出演場所として、ステージをおこない活躍していただきました。ステージに一般公募参加枠も取り入れ、それぞれのパフォーマンスを表現できる場になったと考えています。</p> <p>姫路市とともに、「大阪・関西万博 PR パレード」を実施しました。</p> <p>大手前公園より、姫路城三の丸広場を目指して、パレードをおこなったことでコスプレイヤーの認知度もあがったのではと考えています。</p> <p>今後も「新しい文化で姫路を盛り上げよう！」のローガンとともに、姫路に新しい文化が根付けるようにサブカルチャー文化を盛り上げていけるように活動していきたいと考えています。</p>
事業の効果	

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
7月1日	事務局	第1回実行委員会を開催		10名
8月10日	事務局	第2回実行委員会を開催		8名
9月14日	事務局	第3回実行委員会を開催		11名
11月1日		外部向け広報開始、ホームページを更新 コスプレイヤー参加者募集開始		
12月1日		出展者募集開始、痛車参加者募集開始		
12月28日	事務局	第4回実行委員会を開催		9名
1月15日		痛車参加者募集締切		
2月6日	イーグレひめじ 会議室	第5回実行委員会を開催		25名
3月1日、2日	大手前公園・イーグレひめじ	ひめじ Sub かる☆フェスティバル 2025 開催	30,000	25名
3月8日	事務局	反省会		10名
延べ人数			30,000	98
実人数			30,000	25

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
PIECE	コスプレイヤー募集、当日受付、案内
0 スタートプロジェクト	セカンドステージ運営
痛車チーム bonds	痛車当日受付、配置誘導

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

2026年3月1日に、ひめじ Sub かる☆フェスティバル 2026 を開催予定。

協賛金や参加費を増やして、自主財源を確保したいと考えております。

事業報告書

事業の名称	ジャコウアゲハが飛び交う街「姫路」プロジェクト
ふりがな	ジャコウアゲハがとびかうまちひめじれんらくきょうぎかい
団体名	ジャコウアゲハが飛び交う街姫路連絡協議会
事業の枠 ※該当する項目に○をご記入ください。	○ 一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和 6年 4月 20日 (土) ～ 令和 7年 3月 7日 (土)
事業の対象区域 ※該当する項目に○をご記入ください。	中播磨全域 ・ ○ 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他 ()

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>姫路への訪日外国人も多くなり、市民生活にも活気が溢れきています。その反面、イスラエルのガザ地区への侵攻とウクライナとロシアの戦争も3年目を迎え、世界的な経済不安定や円安、エネルギー高、物価上昇等で地元姫路も不安定な状況です。こんな時期だからこそ、地域の活動や次世代の子供たちへ、未来へ繋がるような地道な活動が必要です。地元姫路の魅力をもっと知ってもらい、姫路を誇りに思える街になるよう 地域資源であるジャコウアゲハを使った個々の市民と地域を結ぶ活動が必要と考えます。</p> <p>【解決方法】</p> <p>現在市内69小学校のうち、53校がジャコウアゲハを育てていただいています。しかしウmanoszukusaを育成指導する先生が転任すればすぐに衰退していきます。継続的な事業にするためには、地域や校区をあげての取組みが必要です。地元公民館と連携しておじいちゃん、おばあちゃんにウmanoszukusaを育ててもらい、子どもたちと交流してもらえれば、3世代に渡る人にも環境にも優しい地域コミュニティが生まれます。</p> <p>また、蝶のいる風景の写真や植物画を募集することで、写真を撮りに外出したり、親子でじっくり自然を観察したり、地域との交流が図れます。そしてその作品を展示、表彰することでハレの場の提供もでき、ジャコウアゲハを通じた喜びの提供にもなります。</p> <p>ジャコウアゲハが飛び交うような環境作りやそれを支える人の育成や啓発活動があれば、SDGs に則った魅力向上に繋がり、姫路市全体でジャコウアゲハによるおもてなしの街づくりが拡がります。市民にとって市蝶であるジャコウアゲハを再認識することによって郷土愛育成や文化、教育へとつながり、そのこと自体がまちづくりの基盤となると考えています。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>1、市民参加型の例会及び勉強会の実施 「第10回ジャコウアゲハサミット」を開催(3/1 姫路科学館)110名参加 ジャコウアゲハによる地元のまちづくりに興味ある方々、個人、団体、企業にお声がけして総勢110名のご出席、清元秀泰姫路市長、科学館中川館長も最後まで参加して下さっていました。檀原市昆虫館 元学芸員 中谷康弘氏による「檀原市昆虫館の30年一年中蝶が舞う放蝶温室の裏話」と題して檀原市昆虫館の設立時の秘話や運営面での苦労話を教えて頂き、姫路にもこんな昆虫館ができればと期待が膨らみました。感謝状贈呈では協議会の趣旨に賛同してウmanoszukusaの植栽や活動にご協力下さった住友生命保険相互会社 姫路支社さん Daigas ガスアンドパワーソリューション株式会社さん、西本みさをさんに感謝状を贈呈、谷内小学校 3年生児童によるビデオによる事例発表、ジャコウアゲハが飛び交う街姫路連絡協議会の活動報告と続き、最後のウmanoszukusa、ジャコウアゲハの育て方セミナーでは、市民はもとより、遠く群馬から来られた方からも質問があり、ジャコウアゲハの活動の広がりを感ぜられたサミットでした。</p> <p>2、「市蝶ジャコウアゲハを飛ばそう」イベント実施(6/21 姫路駅キャスルガーデン) 市長と市蝶118頭+市民50名の参加。今年は100頭以上の新記録でした。天候にも恵まれ、上田会長と司会の藤井涼さんとの〇×クイズのあと、放蝶は清元市長と上田会長とでカウントダウンで実施。見事に黒い蝶が大空に舞い上がり、集まった市民の拍手と歓声で大いに盛り上がりました。ジャコウアゲハが姫路市の蝶であり、姫路の文化と歴史であり、誇りでもあることを改めて実感できたイベントでした。自然に影響されるイベントですが「来年は100頭の蝶を飛ばすイベントに」「ゆかた祭りに合わせて毎年やって欲しい」との市民の声も上がり、姫路と言えば「ジャコウアゲハ」と言われるぐらいまで続けていければと思います。</p>

	<p>3、「植物画」(ボタニカルアート)を描こう」の実施(8/18 姫路文学館)参加者 3家族(7名) 上田会長の講演では 人は日頃、見たいものだけを選択して見たり聞いたりしている。今日は興味を持って見て欲しい。今まで見えていなかった桜の葉の重鋸歯や蜜腺まで見えてくる。観察画に真剣に取り組むことの大切さを教えてもらいました。子ども達も大人顔負けの集中力で難しい観察画を描ききってくれました。いずれは姫路から牧野富太郎のような人材やノーベル賞の取れる人材が育ってくれたらと思います。</p> <p>4, 地域公民館と連携 ジャコウアゲハの食草「ウマノスズクサ」の植栽支援活動を実施しました。 7/21 山田町スイカ祭り(農業振興センター)にてジャコウアゲハパタパタ蝶作りとウマノスズクサ苗の配布活動を通して地域の方々や子供たちにもジャコウアゲハに興味を持ってもらい交流してもらい3世代に渡る人にも環境にも優しい地域コミュニティのお手伝いことができました。 2/26 谷内小、2/27 谷外小では橿原市昆虫館の元学芸員中谷氏に技術を教えてもらいながらウマノスズクサ根伏せ栽培植栽活動が実施できました。</p> <p>5, 情報発信 市民はもとより県外、海外の方にもジャコウアゲハを知ってもらうために、ジャコウアゲハのクリアファイルを作成し ホームページを最新情報に更新、事業告知等を実施しました。 9/7 小松市 こまつ里山 SDGs 倶楽部 蝶が舞う里山づくり部会11名がバスで姫路のジャコウアゲハの取組に興味を持って来姫されました。当日は姫路市農業振興センター森口所長、姫路市環境政策室津田係長、ジャコウアゲハが飛び交う街姫路連絡協議会上田会長の取組発表のあと、農業振興センター、山田町上田会長のウマノスズクサ育成場所にて実地の育成方法見学及び夢前ヤマサ蒲鉾さんの企業の取組を見学していただきました。その後懇親会では今後の運営方法等お互いの意見交換ができました。 また 3/1 サミットでは群馬県から5名、富山県から2名、石川県からも参加してもらえました。</p> <p>6、生物多様性学習バスツアー、写真展、植物画展の実施 自分たちの地域に興味をもってもらい、自然環境の脆さや里山の大切さを学んでもらう事業を実施し情報発信しました。 9/21 秋の生物多様性学習バスツアー参加22名。谷内小のウマノスズクサ育成場所を見学した後、伊丹の昆虫館にて710頭の蝶の写真撮影、人と自然の博物館にて見学と蜘蛛の生態について勉強し、生物多様性の学習をしました。 1/11～19 第11回「蝶のいる風景」写真展、第2回植物画展をヤマサ夢鮮館2階にて実施しました。(会期中入場者数 761名の参加) 1/12には写真61点、植物画206点の中から優秀作の表彰式を実施しました。 今回、植物画については学校単位での応募も受付し 山田小、谷内小、網干西小、妻鹿小、姫路日本短期大学付属幼稚園、山田こども園の6校の応募があり、学校への拡がりが見られました。</p>
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p> <p>事業を通して地域社会への拡がりとして、姫路市環境政策室を通して小学校への苗の配布を実施し、平成26年13校21クラス、平成27年16校36クラス、平成28年28校60クラス、平成29年44校104クラス、平成30年49校123クラス、令和元年47校130クラス、令和2年44校108クラス、令和3年52校137クラス、令和4年54校134クラス、令和5年53校125クラス、令和6年46校119クラスが取り組んで頂いている。 徐々にではあるがウマノスズクサの生育方法の技術の伝達で、自前で調達ができるようになり、苗の配布が必要ない学校も増えてきている。 また、他県からの問い合わせや視察も増えて令和6年度 小松市、群馬県、石川県からも視察に来られ、地域を超えた拡がりが見られた。</p> <p>ジャコウアゲハとウマノスズクサの育成に取り組んで頂いている企業として、平成26年大阪ガス、ヤマサ蒲鉾、平成27年西芝電機、山陽色素、グローリー、平成28年はイオン大津、平成29年山陽特殊製鋼、令和元年東芝エレベータプロダクツ、令和2年市内4ゴルフ場(青山ゴルフ、旭国際ゴルフ、白鷺ゴルフ、姫路シーサイドゴルフ)令和3年 書写ゴルフ練習場、令和4年三井住友信託銀行、播州信用金庫、姫路信用金庫、姫路郵便局、令和5年はぎ保育園、石川病院、リンクス、アカシカ住宅、賢明女子学院、日本玩具博物館、令和6年ドコモCS 関西、カマタニ、カノープス、Daigas ガスアンドパワーソリューション、住友生命保険が取り組んで頂いている。</p>

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事業内容	参加者数	スタッフ数
4/20	城の西公民館	キックオフ例会	3	7
5/25	山田町囲炉裏倉庫みち草	実施計画検討会		7
6/15	城の西公民館	実施計画検討会		7
6/21	駅前キャッスルガーデン	市蝶を飛ばそう	50	7
6/27	谷外小	ウマノスズクサ講習会	58	3
7/10	カフェドムッシュ新在家店	実施計画検討会		7
7/21	山田町農業振興センター	山田町スイカ祭食べ比べ大会	100	5
8/10	城の西公民館	実施計画検討会		7
8/18	姫路文学館	第2回植物画(ボタニカルアート)を描こう	7	5
9/7	山田町農業振興センター、ヤマサ蒲鉾	小松市視察受入	11	7
9/21	中播磨周辺	バスツアー	22	7
10/31	城の西公民館	実施計画検討会		7
11/19	城の西公民館	実施計画検討会		6
12/7	市民会館	写真、植物画選考会		5
1/11~19	ヤマサ蒲鉾	ジャコウアゲハ写真展	761	7
2/16	城の西公民館	実施計画検討会		7
2/26	谷内小	ウマノスズクサ講習会	12	
2/27	谷外小	ウマノスズクサ講習会	59	
3/1	姫路科学館	ジャコウアゲハサミット	110	
3/7	城の西公民館	反省会等		7
延べ人数			1193	101
実人数			1193	7

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
NPO 法人スローソサエティ	会議への参加と企画運営においてアドバイスをいただきました。「市蝶ジャコウアゲハを飛ばそう」イベントにおいての企画運営、ジャコウアゲハによる駅前のおもなし空間の演出や、今後のデザインを実践を通して携わってもらいました。自然に影響されるイベントですが「市長も乗り気で来年もやりましょう」との声ももらい、姫路と言えば「ジャコウアゲハ」と言われるまで続けていこうと思います。

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

地域の公民館と連携してウマノスズクサの育成が実施されれば、その地域の小学校でのジャコウアゲハの教育環境が整い、地域の3世代市民への認知がさらに進むと思われる。ジャコウアゲハを育てた子供たちが、20年後、親になって自分たちの子供にもジャコウアゲハを育てた記憶や経験を紡いでいってもらえれば、ジャコウアゲハを通して、人にも環境にも優しいまちづくりが永続的に期待できる。

自主財源確保の取り組みは今後の課題でもあります。

事業報告書

事業の名称	香寺太鼓地域づくり事業
ふりがな	こうでらだいこ
団体名	香寺太鼓
事業の枠 ※該当する項目に○をご記入ください。	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 <input type="checkbox"/> 万博推進枠 ・ <input type="checkbox"/> ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和6年4月10日(水) ～ 令和7年3月10日(月)
事業の対象区域 ※該当する項目に○をご記入ください。	<input checked="" type="checkbox"/> 中播磨全域 ・ 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 <input type="checkbox"/> その他 ()

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年に地域づくり活動で和太鼓チームを立ち上げてから20年を迎えたのを機に、記念誌「香寺太鼓20年の歩み」を編集刊行し、地域の皆様や関係機関に配布して事業の認知と活動範囲の拡大を図る。 ・新たな活動の場を開拓して活動範囲を広げる。
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・香寺太鼓20周年記念誌「香寺太鼓20年の歩み」を編集刊行し、地域や関係機関に配布することにより、次への事業の継承、発展に繋げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 記念誌には今年度までの20年の活動を掲載したので、今年度事業は記念誌の編集・印刷・発行までで、地域の皆様や関係者の皆さんに広く配布するのは次年度事業となる。 </div> ・新たな活動の場として、専光寺宗祖降誕会法要(山田町多田)、正八幡神社夏まつり(船津町)、神崎ロータリークラブ恒屋城趾千本桜植樹祭(香寺町恒屋)、日本玩具博物館開館50周年記念イベント(香寺町中仁野)を開拓し出演して演奏した。 ・各種福祉施設への慰問演奏として、新たに社会福祉法人播磨福祉事業館の地域ふれあい祭りの出演し演奏した。
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の各種イベントや事業に参加して、新たな地域文化の旗振り役として貢献できた。 ・地域の子供たちの太鼓指導や、姫路市立児童センターを巡回して太鼓教室を開催するなどして、和太鼓を通じた地域文化の継承と子育て支援が図れた。

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月日	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
毎週土曜日 (年間37回)	県民交流会館 (香寺町犬飼)	定例・和太鼓練習 (講師の指導は月2回、@10,000/月)	(各)12名	12名
5月12日	姫路市山田町多田	専光寺宗祖降誕会法要出演	300	11
7月13日	姫路市船津町	正八幡神社夏まつり出演	300	9
7月24日	姫路市船津町	姫路市立ふれあいの郷夏まつり出演	100	9
8月3日	香寺町総合公園	香寺町夏まつり出演	1,000	7
8月17日	香寺町姫ヶ丘	姫ヶ丘夏まつり出演	300	7
8月17日	香寺町溝口太子堂広場	溝口夏まつり出演	300	8
9月06日	香寺町溝口駅前	溝口駅前デーワンまつり出演	300	7
9月08日	香寺町香呂小学校	こうろ夢明まつり出演	300	6
10月13日	香寺町地域事務所	香呂地区秋祭り出演	800	11
10月13日	香寺町中仁野	中仁野秋祭り出演	300	8
10月20日	姫路市飾東町	姫路学園学園祭出演	100	5
11月03日	香寺町恒屋	神崎ロータリークラブ恒屋城趾千本桜植樹祭出演	100	9
11月10日	姫路市西脇	播磨福祉事業館地域ふれあい祭り出演	300	7
11月10日	香寺町中仁野	日本玩具博物館開館50周年記念イベント出演	200	7
11月30日	福崎町	JA兵庫西農産物ふれあいフェア出演	300	7
1月14日	姫路市	播磨国総社宝恵駕籠行列出演	5,000	9
2月23日	姫路城三の丸広場	姫路城マラソン2025出演	10,000	6
8月24日	網干児童センター	姫路市立網干児童センター和太鼓教室	18	1
8月25日	北児童センター	姫路市立北ゾウセンター和太鼓教室	12	2
年間通期	記念誌編纂作業	香寺太鼓20周年記念誌「香寺太鼓20年の歩み」	12	12
延べ人数			20,042	148
実人数			10,000	12

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
・中仁野自治会 (姫路市香寺町中仁野)	・秋祭り和太鼓演奏の出演 ・屋台音頭の指導 ・子供あばれ太鼓の指導 ・和太鼓の貸し出し

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

- ・和太鼓演奏の技術の向上を図り、演奏曲種のレパトリーを増やして、活動範囲の拡大を図る。
- ・会員を増やし、会費を増額して基礎財源を確保する。

事業報告書

事業の名称	「シン・播磨国風土記 アナシ姫とかかしの里」製作事業
ふりがな	きたつねやみつばちプロジェクト
団体名	北恒屋みつばちプロジェクト
事業の枠 ※該当する項目に〇をご記入ください。	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和 6 年 4 月 3 日 (水) ～ 令和 7 年 2 月 28 日 (金)
事業の対象区域 ※該当する項目に〇をご記入ください。	中播磨全域 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他 ()

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>姫路市の中でもとりわけ過疎化が進んでいる安富町・夢前町・香寺町では播磨風土記や民話などが、語り部たちによって引き継がれて来た。昔話には、次の世代に残して置きたい普遍的なテーマが多くある。しかしながら近頃、多世代の交流機会が少なくなり、子ども達が地域の昔話を聞く機会は少なく、語り部たちは 90 歳代になっている。課題解決に向けては、昔話から次の世代に残して行きたい話を、取材を重ねて絵本づくりを行う。民話などの昔話を、語り部からの聞き取り調査や資料を調査しながら絵本にして後世に残す。またその絵本を子育て世代の親が子供に読み聞かせて地域の物語を知ってもらう。地域の貴重な物語を知ってもらうことで、地域の人の郷土愛を育む。また、物語を通じて地域外の人に興味を持ってもらうことで来訪を促し、地域の活性化につなげる。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>安富町については</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 1 年を通して多くの方々に取材しながら絵本づくりの為の情報収集を実施した。取材対象 10 人、延べ取材日数 20 日をかけて聞き取り調査した。安富町内の物語に出てくる場所については、90 歳の志水出世さんに 3 日間にわたり案内してもらいまた多くの資料提供をしてもらい協力して頂いた。 ② 絵本物語りについては播磨国風土記との考察検証を研究第一人者埴岡真弓さんが執筆者の指導協力して頂いた。 ③ 安志加茂神社の宮司や播磨国風土記研究者の埴岡真弓さんからは物語の起りから解説してもらい、また志水出世さんや安富ブロック連合自治会の下村さんからは、地域の近代の歴史や場所を案内してもらうことが出来た。 ④ 安富町に関わる物語りを地域の古老も参加したトークショーを実施して皆さんに地域の貴重な物語を知ってもらい地域愛を醸成するきっかけ作りに繋がった。また、絵本の朗読会を行なって参加者に絵本で伝える楽しさ喜びを知ってもらうことが出来た。 ⑤ トークショー参加者、絵本朗読会参加者には完成した絵本「アナシ姫と伊和の大神」を 1 冊プレゼントして、子育てに地域のイベントに活用してもらえるようにした。 ⑥ 次世代を担う子供たちも興味を抱き関心を持ってもらう為、トークショーに引き続きシャボン玉ショーを行い親子で参加でき一日中楽しめるイベントにし、楽しんでもらうことが出来た。 <p>香寺町については</p> <p>香寺町の絵本づくりでは、香寺町を代表するユニークでユーモラスな祭岩部の樽かきをテーマとして取り上げ、それに加えて香寺町内のあまり知られていない観光地を取材して絵本の中で QR コードを使い動画で紹介することが出来た。</p> <p>完成後、若い世代に物語を知ってもらう為、こども食堂に贈呈し開催日に絵本を紹介してもらった。 観光客の呼び込みを図るために姫路観光コンベンションビューローの意見指導をもらっており、今後、具体的な手法を検討していく。</p> <p>夢前町については</p> <p>取材対象の 7 カ寺を事前訪問し取材趣旨を説明して 4 月以降の取材協力の約束を取り付けた。</p>
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p> <p>9 世帯 10 人余りの限界集落にこの様な物語が受け継がれており、それを絵本に仕上げ、多くの人に読んで知ってもらうことが、その地域を知ってもらい訪れてもらう機会になる。</p> <p>ただ、子どもに読み聞かせるだけの絵本では無く、地域に対しては愛着を育みながら、姫路市内外からは観光にも繋げる絵本として活用できる。</p>

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事業内容	参加者数	スタッフ数
4月～10月	安富町内	史跡調査(絵本の題材の現場調査) 志水出世様案内役	6人	5人
4月～10月	香寺町内10か所	絵本の題材の取材	45人	5人
6月12日	香寺町公民館	絵本づくりの進め方打ち合わせ	4人	4人
6月20日	香寺町公民館	絵本づくりの進め方打ち合わせ	4人	4人
7月17日	安富町公民館	絵本づくりの進め方打ち合わせ	6人	3人
7月20日	奥播磨かかしの里	火まつりイベントでの撮影	100人	5人
8月下旬 3回	香寺町内	絵本編集会議「アナシ姫と伊和の大神」	3人	3人
9月	安富町内	10月5日実施の「知っとこふるさとトークショー」開催に向けての打ち合わせ会議	6人	3人
10月5日	奥播磨かかしの里	トークショーの実施および絵本朗読会の実施	50人	5人
10月5日	奥播磨かかしの里	シャボン玉パフォーマンス公演実施	50人	5人
11月～12月	香寺町内	絵本編集会議「赤フンドシと大蛇のまつり」	3人	3人
2月	夢前町内	絵本の題材について打ち合わせ		5人
		延べ人数	227人	50人
		実人数	100人	5人

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
安志加茂神社	トークショー出演
岩部樽かき保存会	資料情報提供
安富ブロック連合自治会	安富町内チラシ配布

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

この取組に賛同いただき、支援がいただけるよう、先に完成した2町の絵本を多くの人に読んでもらえるよう、トークイベントなどを企画していきたい。

事業報告書

事業の名称	はりまゆずプロジェクト
ふりがな	はりま きもりびと
団体名	はりま・きもりびと
事業の枠 ※該当する項目に○をご記入ください。	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和 6 年 5 月 6 日 (月) ～ 令和 7 年 2 月 28 日 (金)
事業の対象区域 ※該当する項目に○をご記入ください。	中播磨全域・ <input checked="" type="checkbox"/> 姫路市 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他 ()

目的	現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。
	<p>播磨地域の果樹の収穫を継続して行い、播磨地域の文化や果樹栽培の生産者を守るために、様々なことを実践することを目的としています。人口減少に悩む神河町根宇野区のゆず生産組合の販路開拓につなげるため、はりまゆずの魅力を発信、ブランディングをします。</p> <p>この活動を通して、はりまゆずが広く認知され消費量が増え、一緒にゆずを守る活動をしてくれる方や後継者候補の方が増えることを期待しています。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>【具体的な活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月から「施肥」「草刈り」「収穫」「運搬」に取組み、ゆずを収穫しました。 ・収穫したゆずをつかったゆずソーダ、ゆずソーダ(生絞り)を11月の姫路食博にて販売しました。 <p>【新たに実施した取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神姫バス株式会社の企画によるバスツアー「～みよの応援ツアー・ゆず収穫体験ボランティア～」を実施しました。このツアーは神姫バスさんが企画・集客され、私たちは当日のゆず収穫体験を提供するだけで、他に広報などの負担は発生しませんでした。 遠くは奈良から、約40名の方が参加され、ゆずの収穫体験やゆず組合長による講和、ゆず味噌作り体験を行っていただきました。とても好評で、来年も実施予定となりました。 ・HARiwoMANと協働で、「地元の農家さん応援☆はりまゆずの収穫体験」を行いました。約20名が参加され、収穫体験の他にしぼりたてのゆずでソーダを作り味わっていただきました。 もともとHARiwoMANには毎月例会があり、11月の例会に声をかけていただき、今のゆず畑の現状をお伝えする機会がありました。それをきっかけにゆず収穫の手伝いをできないか?と問い合わせがあり実現しました。 ・ゆずの搾汁体験を実施しました。(ゆずみそ作り体験を行う予定でしたが、諸事情により搾汁体験へと変更になりました)11/25と12/20に実施しました。 ・株式会社マルセイと協働で、絞った果汁を活用したクラフトコーラの制作が進んでいます。 7月から2回程度、株式会社マルセイにて、先方のスタッフ1名ときもりびとスタッフ1名とで打ち合わせ・試作を行っています。 ・絞ったあとの皮を活用した入浴剤を、株式会社マルセイ(漢方のメーカー)様と一緒に制作しました。 ・米粉たいやきを販売する「甲賀米粉たいやき」様からコラボたいやき制作の打診があり、2回の打ち合わせで柚子の説明や柚子ジャムの作り方の提供を行いました。 ・12/7にゆずポン酢作り体験を、コープ集い場にて実施しました。
	事業の効果

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月日	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
5月6日	事務所	団体メンバーでの事前会議 運営方法の検討		4
5月8日	ゆず農園	ゆず栽培活動:施肥	6	4
6月2日	ゆず畑	剪定作業		1
8月29日	ゆず農園	ゆず栽培活動:草刈り	7	4
9月1日	ゆず畑	剪定作業		1
10月20日	ゆず畑	収穫作業		1
10月27日	ゆず農園	ゆず栽培活動:収穫・運搬	5	4
11月8日	ゆず畑	収穫作業		1
11月9日	ゆず農園	バスツアー「～みよの応援ツアー・ゆず収穫 体験ボランティア～」開催	40	4
11月14日	ゆず畑	収穫作業		1
11月14日	ゆず農園	HARlwoMAn との協働企画「地元の農家さん 応援☆はりまゆずの収穫体験」開催	11	3
11月22日	大手前公園	姫路食博	1,000	4
11月23日	大手前公園	姫路食博		4
11月24日	大手前公園	姫路食博		4
11月25日	はこプラス	ゆずの搾汁体験	10	4
11月30日	ゆず畑	収穫・運搬作業		1
12月7日	青山コープのつど い場	ゆずポン酢作り体験	12	4
12月20日	はこプラス	ゆずの搾汁体験	10	4
2月16日	ゆず農園	ゆず栽培活動:剪定	7	4
7~2月 月2回	(株)マルセイ	クラフトコーラ制作 打ち合わせ・試作	1	1
7~12月	(株)マルセイ	入浴剤制作の打ち合わせ	1	1
12月	甲賀米粉たい焼き	たい焼き制作の打ち合わせ	1	1
		延べ人数	1,111	60
		実人数	1,081	4

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
HARlwoMAn	「地元の農家さん応援☆はりまゆずの収穫体験」開催

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

はりまゆずの認知度や注目度が上がってきたと感じるため、今後もよりいろいろな方と協業で、体験イベントの開催に注力していきます。

また、ゆずの果汁だけでなく皮などもすべて活用し、加工品の製造販売に力を入れていきます。現在開発が進んでいるクラフトコーラは、姫路駅近くのお土産屋にて取り扱ってもらえることになっています。これまでは生のゆずしか主な取扱商品がありませんでしたが、加工品の販売が増えれば安定した財源の確保にも期待できます。

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
6月21日	七福座	第1回実行委員会	(20)	20
7月8日	七福座	第2回実行委員会	(20)	20
7月31日	七福座	第3回実行委員会・食品衛生講座（姫路市保健所）	(20)	20
8月11日	西二階町商店街 アーケード	【魚町・塩町応援まつり in 西二階町商店街】	1,000 内外国人 (200)	50
9月9日	七福座	振り返りの会（反省会）	20	20
			延べ人数	1,080
			実人数	130

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
城南地区連合自治会	魚町、塩町の飲食店と西二階町商店街との連携補助。 （魚町、塩町側担当）
西二階町商店街振興組合	魚町、塩町の飲食店と西二階町商店街との連携補助。 （西二階町商店街側担当）

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

(1) 今後の事業展開

西二階町商店街振興組合と連携をしながら、イベントとして出来る限り継続して行く。イベント時の PR 看板のノウハウを、西二階町商店街振興組合で次年度作成予定の常設看板に引き継ぐ。

(2) 自主財源確保の取組等

参加者での負担割合を増やして行う。

事業報告書

事業の名称	中播磨銀の馬車道自然体験プログラム
ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじんひめじこんべんしょんさぽーと
団体名	特定非営利活動法人姫路コンベンションサポート
事業の枠 ※該当する項目に0をご記入ください。	一般枠 ・ <u>銀馬車枠</u> ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和 6 年 4 月 17 日 (水) ～ 令和 6 年 12 月 23 日 (月)
事業の対象区域 ※該当する項目に0をご記入ください。	<u>中播磨全域</u> 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他 ()

目的	現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。
	銀の馬車道エリアは自然豊かな場所が多いが、その魅力が伝わっていない。またエリアが広いため自分の住む地域以外のスポットを知らないまま体験の機会を逃している人も多い。子育て世代の家族に自然体験の機会を提供するため、市町の枠を超え「銀の馬車道」をひとつのエリアとし、単発ではなくシリーズとしてそれぞれの市町の特徴あるスポットでイベントを実施。自然体験を通じて各市町の魅力を体感し、郷土愛を培うとともに「銀の馬車道」について知って頂く機会を提供した。また、当事業を通じて銀の馬車道エリアの魅力を内外に発信し、エリア全体の誘客と活性化を図ることを最終目標とした。
内容	具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。
	<p>銀の馬車道エリアで自然や歴史に触れ、郷土愛や自然愛を育むきっかけとなるような体験を開催。中播磨地域全体や銀の馬車道について知って頂く時間も設け、知名度・理解度のアップと再訪に繋げる。一覧で広報物を作成することにより参加回以外のスポットも知って頂けるよう工夫した。</p> <p>(1) 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ①8/17 棚田でまるごと自然体験 (市川町) ②9/15 いえしま漁業船体験&海の生きもの観察 (姫路市) ③9/28 とのみね高原初秋の生きもの観察 (神河町) ④10/5 鶴 imo お芋ほり体験 (市川町) (当初全6回の予定だったが2回は都合により催行中止) <p>イベント開催時に銀の馬車道についての説明も行い、地域について知識を深めながらの自然体験イベントを行った。参加者には事後アンケートをとり、今後活かせるよう情報収集を行った。</p> <p>また、中止となった2回にあたり、申し込みのあった2名には銀の馬車道の説明資料をメール送付するとともに関連サイトのご案内を実施し、情報発信に努めた。</p> <p>(2) 告知、受付方法</p> <p>イベントスケジュールが一覧になった A4 パンフレットを作成し、各回ごとの申し込み QR コードを表示。WEB サイトにて受付を行った。パンフレットを各市町と周辺地域へ配架したほか SNS を用いた告知も行い、実施の様子についても発信した。</p>
事業の効果	事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。
	<p>各プログラムでは、地域に根差した活動を行う団体や施設を活用することにより、地域への経済効果と再訪のきっかけを作ることができた。また、参加者と地域の人との交流を通じた街の魅力発信も付加価値として生じるなど、イベント内外で起こるシナジー効果を得ることができた。</p> <p>巻頭で銀の馬車道についてを分かりやすく説明した「銀の馬車道発見ノート」を制作し、イベント開催時に活用することができたほか、実施後アンケートからは、参加者のニーズが「体験型」「自然」などにあることがわかり、今後の企画に活かせるものとなった。</p> <p>銀の馬車道という広いエリアだからこそ、海・山・川・里という豊かな自然景観を感じられる体験学習となったことに加え、数か月間でシリーズ化したことにより、季節の移り変わりと地域の特色を感じることができるといった気づきも得られた。今回の事業の成果を踏まえ、今後さらにブラッシュアップしたものに仕立てていきたい。</p>

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事業内容	参加者数	スタッフ数
4月17日	市川町観光協会	打ち合わせ	3	1
5月24日	家島町西島	いえしま自然体験センター打ち合わせ その他講師はオンラインやメールなどで打ち合わせ	3	2
6月3日	姫路市内	チラシデザイン打ち合わせ 作成開始		2
7月8日		チラシ完成、小学校や施設等へ配布開始 SNSでの告知		2
8月17日	市川町	第一回 棚田でまるごと自然体験	13	5
9月15日	家島町西島	いえしま漁業船体験&海の生きもの観察	26	3
9月28日	砥峰高原	砥峰高原 初秋の生きもの観察会	12	2
10月5日	市川町鶴居	鶴 imo お芋ほり体験	8	3
11月4日	福崎町	七種山チャレンジハイタ (中止)		2
11月20日	市川町	笠形古道歴史探訪ハイタ (中止)		2
延べ人数			65	20
実人数			59	13

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
とくていひえいりかつどうほうじんしょうがいがくしゅうさぽーとひょうご 特定非営利活動法人生涯学習サポート兵庫	プログラムの企画・実施に当たってのアドバイス

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

今回は参加費を徴収して自主財源に充てたが、実施回によって参加者数に大きな差があったことにより、自主財源が予定より確保できなかった。今回は親子対象のイベントと大人向けイベントを合わせて企画したが、反響の大きかった親子向けに対象を絞り、1回ごとの参加ではなく、連続で参加を必要とするなど、確実に財源を確保できる企画を検討したい。

事業報告書

事業の名称	わいわいしゅくだいカフェ
ふりがな	エイチエムジェイアクト
団体名	HMJ_act
事業の枠 ※該当する項目に〇をご記入ください。	一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ <u>子育て枠</u> 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和 6年 4月 9日 (火) ~ 令和 7年 3月10日 (月)
事業の対象区域 ※該当する項目に〇をご記入ください。	中播磨全域 ・ <u>姫路市</u> ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他 ()

目的	現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。
	<p>以下3点を目標に事業を取り組みました</p> <p>① 「家族だらん時間」を2時間作り出します</p> <p>② コミュニティを作ることで孤独な「孤育て」を脱却</p> <p>③ これから子ども関係の仕事や教育に興味がある地域の高校生や大学生をボランティアとして機会を生み出し多世代交流を実現。また、子どもが子どもに教えあったりする協力関係を作り出します</p> <p>上記を目標に取り組み毎週平日火曜日～金曜日オープンし続けて宿題を終わらせ家に帰ることができ家族の時間を過ごせたり、高校生や大学生にも関わってもらうことができ交流する場を持た</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。</p> <p>特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p>
	<p>取り組み内容として</p> <p>① 「放課後のこどもの居場所」スタイルで学校の宿題を終わらせ自由に過ごせるフリースペースを提供</p> <p>見守りがある安心安全な場で、楽しく放課後を過ごせる環境を提供しました</p> <p>毎週平日火曜日～金曜日 15:00～19:00 オープンし続けていつでも子どもたちが来ても大丈夫なような体制で継続しました。(冬は陽が沈む時間が早く安全面の観点から 17:00 でクローズ)</p> <p>見守りがある安心安全な場でしゅくだいを教え合ったり、多世代と共に遊んだりと交流の場を提供できました。</p> <p>② イベント開催 じゃがいも掘りやうどん会、旬野菜収穫からおにぎりにして食べよう会、さつまいも堀やクリスマスイベントを開催して子どもたちが楽しみながら学び、コミュニティを作れた</p> <p>③ こども食卓 野菜収穫～調理～食事まで一貫したこども食卓を新たに実施しました。 (こども店長祭りが開催断念のため)</p>
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度より青山連合自治会の後援を頂ける形まで地域に根差した活動の影響が広がっている ・寄付に関して、新たに2名の地域の方が賛同頂ける形となった ・姫路ボランティア協会にもご協力頂き、毎月ボランティア応募が4～5名来ており、高校生や大学生にも影響が広がっており、子どもたちに興味関心を持ち活動を共にしたい仲間が集まっている ・兵庫県立大学の研究室(ゼミ)と来年度から共同研究という形で、子どもたちの環境における教育のあり方をテーマに進める形となった ・琴ヶ丘高校1年生での授業に探求学習があり、その授業に協力依頼があり協力させて頂いた

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月日	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
4月9日	高田倉庫	放課後のこどもの居場所 毎週平日火曜日～金曜日 1回辺り 10名参加 今年度 2024年4月9日～2025年3月21日 年間利用人数約 1,920名(重複含む) ボランティアスタッフ登録数:33名	1920名	33名
6月6日	高田倉庫	じゃがいも掘り&うどん会	15名	5名
6月26日	高田倉庫	旬野菜収穫からおにぎりにして食べよう会	12名	2名
10月30日	高田倉庫の畑	さつまいも掘り	15名	3名
12月25日	高田倉庫	クリスマスイベント	10名	2名
延べ人数			1972名	45名
実人数			150名	20名

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
白鳥小学校	チラシ配布及び利用

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

兵庫県立大とのこどもたちの環境をより良くする研究をスタートさせると共に、財源として寄付が増えており、自主財源確保を引き続きしていく。現状年間 120万円ほど見込みとしてある状況で、あと 80万円ほど不足しているので広報活動をしていく。また、フードロスを絡めた取り組みをボンマルシェ様と話し合いさせて頂く場があるので、地域全体がうまく循環できるように取り組んでいきます

事業報告書

事業の名称	中播磨の次代を担う子供たちへの産業 PR プロジェクト
ふりがな	なかはりまちしょうこうかいせいねんぶれんらくきょうぎかい
団体名	中播磨地区商工会青年部連絡協議会
事業の枠 ※該当する項目に〇をご記入ください。	一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和6年7月1日(月) ～ 令和7年2月6日(木)
事業の対象区域 ※該当する項目に〇をご記入ください。	中播磨全域・姫路市・神河町・市川町・ 福崎町 その他()

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>中播磨地域では人口減少や高齢化が加速しており、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所の発表した地域別将来推計人口によると2050年には2020年時点に比べて姫路市では約20%、市川町では約50%、福崎町では約30%神河町では約50%の人口が減少するとされている。このままでは人口減少により、山間部では維持していくのが困難な集落が増加する他、少子高齢化に伴い、各業種とも人材・後継者が不足(特に中小企業で顕著)。地域を活性化するために、外から人をどのように呼び込んでくるかが課題となっている。そこで、中播磨地域の産業の魅力や次代を担う子供たちに伝えることで、将来「中播磨に住みたい・働きたい」というふるさと意識を醸成し、人口減少に歯止めをかけるとともに社会的活動をより活発に展開することを通じてコミュニティの充実強化につなげることを目的とし、本事業を実施した。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>(1)内容:12月14日(土)に職業体験イベントを開催した。職業体験イベントは、中播磨地区の商工会青年部に所属する部員事業所から出展者を募り、クリスマスにちなんだ工作等のワークショップを行った。併せて、自衛隊・消防・警察機関に出展を依頼し、乗車体験を通して働く体験を提供していただいた。ステージイベントは各市町の団体に出演いただいた。また、集客力を高めるため、イルミネーションやキッチンカー、物販ブースの出店などを抱き合わせ、クリスマスマーケットとして実施した。なお、当日の夕方にイルミネーションの点灯式を行い、イベント終了後、12月25日(水)のクリスマスまで点灯を継続し、JR福崎駅を彩った。</p> <p>(2)進め方:事業の実施に向けて、中播磨地区商工会青年部連絡協議会のメンバーの中から実行委員を選出し、実行委員会を立ち上げ、イベントの詳細な企画・運営を行い、当日に備えた。</p> <p>(3)発信方法:職業体験・物販や飲食業者等について、中播磨地区の各商工会青年部へ直接声掛けを行い募集した。イベント全体の告知については専用 SNS(インスタグラム:nakaharima_seinenbu)を作成し、各市町の教育委員会の後援のもと、各市町の学校へチラシを配布した。今回、中播磨地区商工会として初めての合同イベントとして初めて実施し、各青年部が職業体験、ステージイベント、広報、物販、飲食ブースの役割について協働して運営した。</p>
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p> <p>職業体験は、各青年部員事業所が中心となって出展し、多くの子どもが手作りを通してものづくり体験を行うことができ、中播磨地域の商工業の魅力や PR できた。ステージイベントでは、各地域の学校や団体に出演いただき、日頃の練習の成果を発表する機会となり、新たな活動のきっかけとなった、と感謝の声をいただいた。飲食・物販ブースでは、クリスマスにちなんだ商品を提供していただいた。日ごろから各青年部が地域でイベントを行っている繋がり(出店業者・ステージイベント出演者)を活用することができた。また行政の協力を得ることで、事業(イベント)の周知のほか、イベント開催場所の提供をしていただくことができ、今回のイベントで各行政との繋がりを持つことができ、将来「中播磨に住みたい・働きたい」というふるさと意識の醸成ができた。</p>

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事業内容	参加者数	スタッフ数
7月23日	市川町商工会館	第1回実行委員会開催	0名	12名
8月28日	福崎町商工会館	第2回実行委員会開催	0名	14名
9月19日	神河町商工会大河内支所会館	第3回実行委員会開催	0名	14名
9月20日	-	出店者等募集開始	0名	0名
10月10日	-	出店者等募集締切	0名	0名
10月15日	福崎町商工会館	第4回実行委員会開催	0名	14名
11月7日	神河町商工会館	第5回実行委員会開催	0名	16名
11月15日	-	チラシ校了	0名	0名
11月22日	-	チラシ納品	0名	0名
11月22日	-	各市町小中学校等へチラシ配布	0名	0名
12月5日	福崎町商工会館	第6回実行委員会開催	0名	14名
12月13日	駅前交流広場(福崎町) エルデホール芝生広場(福崎町)	会場設営	0名	15名
12月14日	駅前交流広場(福崎町) エルデホール芝生広場(福崎町)	クリスマスマーケット当日(会場設営・撤去) ・クリスマスマーケット、イルミネーション点 火式(駅前交流広場) ・職業体験、ステージイベント (エルデホール芝生広場)で同時開催	2ヶ所合計 (延べ) 3,500名	50名
12月26日	駅前交流広場(福崎町)	イルミネーション撤去	0名	13名
1月28日	市川町商工会館	事業報告会	0名	15名
延べ人数			3,500名	177名
実人数			-	50名

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
神河町商工会青年部	職業体験イベントへの出展・イルミネーション設営・イベント告知 他
市川町商工会青年部	職業体験イベントへの出展・イルミネーション設営・イベント告知 他
福崎町商工会青年部	職業体験イベントへの出展・イルミネーション設営・イベント告知 他
姫路市商工会青年部	職業体験イベントへの出展・イルミネーション設営・イベント告知 他

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

(1)今後の事業展開

次年度以降、中播磨地区商工会青年部合同イベントとして、開催地を市川町、神河町、姫路市、福崎町と毎年変更して開催することで、各地域の賑わいの創出に繋げていく。

(2)自主財源確保の取組等

自主財源については中播磨地区商工会青年部協議会内の事業活動費の拡充のほか、中播磨地区の各商工会の会員事業所に対して事業趣旨の説明を行い、その協力を得ながら、協賛や寄付を募る。

事業報告書

事業の名称	奥播磨かかしの里 フィールドパビリオン推進事業
ふりがな	ふるさとかかしおやのかい
団体名	ふるさとかかし親の会
事業の枠 ※該当する項目に〇をご記入ください。	一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 石博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和6年4月5日（金） ～ 令和7年2月12日（水）
事業の対象区域 ※該当する項目に〇をご記入ください。	中播磨全域 ・ 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他（ ）

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>当団体の活動地域は姫路市の最北部に位置し、過疎・高齢化が進行し村の共同作業、伝統行事の運営、田畑の耕作管理も地域住民だけではまならない状況にある。そこで地域の特徴を活かして都市部住民との交流人口を増やすことで地元住民と都市部住民が協働して集落の維持・活性化を図る取り組みを確立する。</p> <p>令和5年度に当地区は「ひょうごフィールドパビリオン」に認定されており、今年度から来年度にかけてフィールドパビリオン推進事業を展開する。今年度は、SDGsの視点に立った様々な体験企画を一年を通して実施することで交流の促進を図った。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>○各種イベント開催による都市部住民との交流、賑わいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外カフェ、及び野外コンサートの開催(4月、5月、9月、10月、11月に実施) ・野良着貸出しによる野良着撮影会(野外カフェに合わせて実施) ・ティラノサウルス集結イベントの開催(11月に新たな企画として開催) ・かかし製作講座の開催 <p>○野菜づくり・収穫体験、記念植樹イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜シーズンと秋野菜シーズンに野菜づくりと収穫体験イベントを実施 ・カモミール摘み、カモミールティーづくり体験の実施 ・春の花苗植栽イベントと、秋の球根植栽を実施 <p>○地域の伝統行事への都市部住民の参画を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の火まつり、秋祭り、とんど焼きへの参画を情報発信、見物客にも点火に参画してもらうなど運営の工夫を行った。
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外カフェには毎回参加のリピーターが訪れるなど地域ファンが定着しつつある。 ・野菜収穫体験は一昨年よりも作付け面積を大きく増やしたが、野菜高騰の影響もあり大変人気で販売予定していた野菜は早々に完売した。貸し出した野良着を着て畑に入り写真を撮りながら収穫を楽しむグループもいて新たな魅力づくりにつながっている。 ・収穫体験の他にも野菜無人販売を継続して行ってきたが、地元住民も収穫した野菜を持ちよってくれるなど地区としても活動に協力してくれる動きが出てきた。 ・今回初めて開催した「ティラノサウルス集結イベント」は以外にも若い女性の(着ぐるみによる)参画が多く、新たな来客層との交流にも期待が持てる。(今後も継続開催の予定) ・奥播磨かかしの里のファンクラブ「おくはりま倶楽部」のメンバーの中から、今春に一組の夫婦が当集落への移住が決定するなど交流活動の成果が表れ始めている。

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月日	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
4月6日	野外集会所	野外カフェ、コンサート	30名	5名
5月5日	野外集会所	野外カフェ、コンサート	40名	3名
〃		野良着貸出しによる野良着撮影会	20名	3名
〃		花壇花苗の記念植栽、カモミール摘み、カブトムシ幼虫頒布	30名	3名
5月30日	自治会館	かかし製作講座	10名	2名
6月中旬	集落内の畑	ジャガイモの収穫体験、無人販売	50名	2名
6月28日	鹿ヶ壺山荘	かかし製作講座	10名	3名
7月中旬	集落内の畑	トマトその他夏野菜の収穫、無人販売	100名	3名
7月20日	関集落内	関の火まつり体験	20名	3名
7月26日	鹿ヶ壺山荘	かかし製作講座	10名	2名
9月27日	鹿ヶ壺山荘	かかし製作講座	10名	2名
10月5日	野外集会所	野外カフェ、コンサート	60名	4名
〃	〃	野良着貸出しによる野良着撮影会	20名	3名
10月24日	鹿ヶ壺山荘	かかし製作講座	10名	2名
11月24日	野外集会所	ティラノサウルス集結イベント、野外カフェ、コンサート	100名	6名
		野菜収穫体験、販売	80名	5名
		野良着貸し出しによる野良着撮影会	20名	2名
12月27日	関集落内	集落空家整備、推薦球根植栽	4名	3名
1月11日	関集落内	とんど焼き体験	5名	2名
2月～3月	鹿ヶ壺山荘	奥播磨かかしの里ひなまつり(2/16～4/6 まで開催)	800名	5名
計			1429名	63名

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
おくはりま倶楽部 (奥播磨かかしの里のファンクラブ)	各種イベントの運営協力

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

野菜の収穫体験、無人販売の規模拡大
 ・特産作物の契約栽培による収益の安定化
 ・野良着貸出しの有料化 仮定したニーズの確保に向けて対応検討

事業報告書

事業の名称	ひょうごフィールドパビリオン 在来野菜の「たね」から「食べる」まで
ふりがな	はんず
団体名	HANDS
事業の枠 ※該当する項目に〇をご記入ください。	一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和 6年 4月 17日（水） ～ 令和 7年 2月 28日（金）
事業の対象区域 ※該当する項目に〇をご記入ください。	中播磨全域・姫路市・神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他（ ）

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>現在、地域の営農組合の主力は 70 歳以上の方々に、「やれて、あと 5 年」と皆おっしゃいます。農家の高齢化、そして次の世代の担い手不足は喫緊の課題です。他方、若い子育て世代の方々に「農」に関心を持たれている方は増えていると感じています。「自分で育てた野菜を子供に食べさせたい」「子供にも土や生き物に触れて欲しい」など、理由は様々ですが、「種を分けて欲しい」「野菜の育て方を教えて欲しい」という依頼が年々増えているように思います。自然環境や農地を保全し、栽培方法や知識、技術も伝えていかなければいけないと強く思います。子供たちやその親たちに農園を開放し、土に触れ作物を育てる。収穫したものをみんなで調理し食べる。親子が畑を楽しんでいる姿を見ると、地元の人たちも元気になる。それが、将来的に地域の農地や自然環境を守ることになるのではないかと考えています。今年度は、イベントを開催したことで、農家がどんなことをしているか、地元にも魅力的な農産物や自然環境があることを知ってもらうことができました。</p>
	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>① 香寺町に伝わる青大豆があります。その大豆を種まきから約半年かけて育て、味噌作りまで行いました。6 月から畑の準備を始め、7 月に種まき、8、9 月に草引きや土寄せ、10 月にエダマメとして収穫（畑で調理しみんなで食しました）、1 月に大豆を収穫、2 月に味噌を仕込みました。最後は自分の味噌を作って、持ち帰って頂きました。</p> <p>② 「畑のレストラン」と題し、ニンジンの花を見ながら畑で食事をしました。自家採種用のニンジンのは花は 6 月に咲きます。ニンジンの花に囲まれたところにテーブルを持ち出し、花を愛でながら、畑で採れた野菜を使った料理を提供しました（調理はプロの料理人に依頼しました。肉や魚も姫路産のものを使用しました）。ニンジンの花の花見は過去にやってきましたが、プロの調理人に調理を依頼し、それに見合った演出をしたこと、また、今後につながるよう、「想い」を理解してもらおうと、地元の方々に招いて実際に体験して頂いたことは、今年度新しく取り組んだことです。</p>
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p> <p>① 地元の方々に、私たち（HANDS 所属の）農家がどんなことを考えているか知ってもらう機会になりました。実際に、イベント当日などに積極的に準備を手伝ってくれた方もいました。地元の人的な資源を再確認しました。</p> <p>② 協働の相手方であった子ども食堂を主催されている方々との結びつきもより強くなりました。また、子ども食堂の方々が新たに地元の耕作放棄地を借りられ、新年度からみんなで野菜を栽培されることになりました。目指したものがカタチになりつつあると実感しています。</p> <p>③ 地元の方々に、地元にも魅力的な農産物や自然環境があることを知ってもらう機会になりました。</p> <p>④ イベント実施には大変な労力がかかりましたが、実施前よりも目指すべき目的が鮮明になったり、より持続可能なカタチを考える機会になりました。</p> <p>⑤ フォーラム等でも事例発表の機会を頂くことができ、より多くの方に私たちのことを知ってもらう機会になりました。</p>

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
4/17	野田公民館	ミーティング(事業計画の実施について)		5名
5/31	有機農園ばんごんじんじい圃場	イベント準備		3名
6/1	有機農園ばんごんじんじい圃場	「畑のレストラン」準備と実施	29名	9名
6/2	有機農園ばんごんじんじい圃場	「畑のレストラン」準備と実施	25名	10名
6/29	有機農園ばんごんじんじい圃場	大豆の播種準備		4名
7/6	有機農園ばんごんじんじい圃場	大豆の播種	18名	4名
7/14	有機農園ばんごんじんじい圃場	大豆の播種	7名	3名
8/8	有機農園ばんごんじんじい圃場	大豆の草引き、中耕、土寄せ、摘心	7名	3名
9/14	有機農園ばんごんじんじい圃場	大豆の草引き、中耕、土寄せ		4名
10/26	有機農園ばんごんじんじい圃場	エダマメの収穫	15名	3名
11/8	有機農園ばんごんじんじい圃場	イベント準備		4名
11/9	有機農園ばんごんじんじい圃場	「畑のレストラン」準備と実施	18名	9名
12/15	有機農園ばんごんじんじい圃場	ニンジンの収穫、採種用ニンジンの植え替え	20名	3名
2025/1/19	有機農園ばんごんじんじい圃場	大豆の収穫、選別作業	18名	3名
2/9	野田公民館	味噌作り	17名	3名
2/16	野田公民館	味噌作り	11名	3名
2/28	野田公民館	ミーティング(事業の振り返り、新年度に向けて)		5名
延べ人数			185名	78名
実人数			165名	14名

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
ひだまり食堂	農作業補助、イベント補助、準備、告知

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

欧米の有機農家は「CSA (コミュニティ サポートィッド アグリカルチャー)」という仕組みを構築しています。地域(または共有の価値観を持つ集団)がその地域の農家を支える、という仕組みです。農家と消費者、いわゆる産消提携を目的に、契約栽培や農作業の手伝いを行う仕組みです。今後は、私たちの農園に合った「CSA」を構築し、農作業体験や在来作物の保護、農地や自然環境の保全に取り組みたいと考えています。自主財源を確保し、農業経営を継続できるよう、参加費や参加特典等を検討していきたいです。

事業報告書

事業の名称	ブレストアウェアネス（乳房を意識する生活）啓発事業
ふりがな	びんくりぼんひめじ
団体名	ピンクリボンひめじ
事業の枠 ※該当する項目に〇をご記入ください。	一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和 6 年 4 月 5 日（金） ～ 令和 7 年 1 月 20 日（金）
事業の対象区域 ※該当する項目に〇をご記入ください。	中播磨全域 ・ 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他（ ）

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>乳がんに関する啓発活動を通じて、地域の人々は自己検診の重要性や定期的な検診の必要性を理解するようになります。早期に乳がんが発見されることで、治療がより効果的になり、生存率の向上が期待できます。</p> <p>この啓発活動を通じて、健康管理や生活習慣の大切さが広まり、乳がんだけでなく他の病気への関心も高まります。これにより、健康的な生活を送る人が増え、多くの女性が心も体も健康で充実した毎日を過ごせるようになります。また、地域全体の健康に対する意識も向上するきっかけになることを目指しました</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>① 10月1日 姫路駅北口 姫路城ピンクライトアップ及び啓発街頭キャンペーン実施(姫路駅北口) 啓発グッズの配布 姫路市保健所共催</p> <p>② 10月5日 姫路商工会議所 乳がん専門医・専門看護師によるブレストアウェアネスセミナー開催 ・乳がん専門医による乳がん検診とブレストアウェアネスの重要性の説明、 ・AYA 世代体験談による自分が体験した年齢にかかわらずブレストアウェアネスの必要性 ・専門看護師・保健所による専門分野から見た必要性の説明</p> <p>③ ピンクリボンオリジナル「女性健康応援冊子」の改訂と増刷 専門医に監修をお願いして、届きにくいところにも正しい情報が届くように冊子を作成し、各イベントでの配布だけでなく、情報の届きにくい保育園・こども園の保護者に配布(許可の取れた園のみ)</p>
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p> <p>ブレストアウェアネス啓発事業は地域社会全体に対して健康的で支え合いのある環境を提供し、乳がんの早期発見と予防の促進を助けます。</p> <p>① 早期発見と予防意識の向上: ブレストアウェアネス啓発事業を通じて、地域住民は乳がんの早期発見の重要性を認識することができます。定期的な自己検診や乳がん検診の重要性を啓発することにより、早期の段階で乳がんを発見し、治療が可能になるケースが増えます。これにより、乳がんによる死亡率の低下が期待できます。</p> <p>② 健康意識の向上: 女性健康応援冊子の配布。この啓発活動は、乳がんだけでなく、全般的な健康管理の意識を高める役割も果たし、地域全体の健康意識を向上させることができました。情報が届きにくく、関心の薄い若い世代を狙って、協力していただいた保育園・こども園などに配布もしました</p> <p>③ コミュニティの連帯感: 乳がん患者やその家族の支援が広がり、コミュニティ内でのサポート体制が強化されるとともに、地域社会における人々の連帯感が強化されます。</p>

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事業内容	参加者数	スタッフ数
4/5	手柄公民館	実行委員会ピンクリボンスマイルプロジェクト 2024 発足		12
5/17	城巽公民館	実行委員会開催 セミナー ・開催日時・場所の決定		10
6/21	城巽公民館	実行委員会開催 セミナー ・講師決定と依頼		8
7/19	城巽公民館	実行委員会開催 冊子・変更内容の確認告知チラシ作成		12
8/23	城巽公民館	実行委員会開催・告知チラシ配布開始、		9
9/6	城巽公民館	実行委員会開催 セミナー、キャンペーン概要確認		8
9/27	城巽公民館	実行委員会開催 セミナー・会場設営ほか進行確認		13
10/1	姫路城周辺	姫路城ピンクライトアップ	多数	15
10/1	姫路駅北口	乳がん検診啓発街頭キャンペーン	多数	15
10/5	姫路商工会議所	プレストアウェアネスセミナー開催 会場参加	70	16
		〃 オンライン参加 平均	40	
20251/19	城巽公民館	実施報告及び振り返り・2025 年度取り組み		7
延べ人数			多数	125
実人数			多数	16

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
認定 NPO 法人コムサロン 21	広い地域全体に情報を伝えるための広報活動

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

この事業は一時的なものではなく、長期的に継続していくことが非常に重要だと考えています。短期間の活動では十分な成果を上げることが難しく、継続的な取り組みを通じて、徐々に地域の健康意識や行動に変化をもたらすことができます。今後は、定期的な啓発イベントやキャンペーンを実施し、さらに多くの人々に情報を届けるとともに、地域社会全体で乳がん検診啓発をふくめ健康づくりを支える仕組みを作りたいと考えています。自主財源確保は従来のオリジナルグッズの販売に加え、賛同していただける地元企業を増やしていくことを目指していきます

事業報告書

事業の名称	オリヒメプロジェクト「多様化する社会の中での自己実現」
ふりがな	おりひめじぶるじえくとじっこういんかい
団体名	オリヒメプロジェクト実行委員会
事業の枠 ※該当する項目に〇をご記入ください。	一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ <u>ウェルビーイング枠</u>
事業の実施期間	令和 6年 7月 1日(月) ~ 令和 7年 2月 16日(日)
事業の対象区域 ※該当する項目に〇をご記入ください。	<u>中播磨全域</u> ・ 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他()

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>姫路市における、身体障害者は、平成7年度と比較し令和2年度で96%比(235,208人)であるが、精神障害者の比129.4%(54,041人)で減少がみられない。不登校については、令和4年には1000人以上を超え、6年前から400人以上増加がみられる。障害者の方の社会参加や一般就労がなかなか実現できていない現状の中、特に重度障害者の方の社会進出に対してはその可能性はさらに厳しい状況にある。また社会的孤立や不登校など社会とのつながりに課題を抱えている人も多い。そのような社会状況の中で、オリイ研究所が開発した「OriHime」(以下オリヒメ)を用いて、自宅から遠隔でオリヒメを操作し、就労場面や教育場面において社会参加することを目指し、障害者や社会的孤立者の孤独の解消を目指した。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>○就労活動部門 ※当初計画していた姫路セントラルパークでの就労活動については、8月実施予定であったがオリヒメ操作者のおられる施設にてコロナ感染症発症者が出たため中止となり、代替りの計画として姫路食博での就労活動とした。また、それに伴い、オリヒメレンタル時期に変更が生じ(8月→11月)、事業の着手が後ろ倒しになった。</p> <p>日時)11月23日 10時~17時 場所) 大手前公園 特設会場 活動内容) 姫路食博2024におけるユニバーサルゾーンブースにおいてオリヒメを設置し、姫路市内在住の障がい当事者の方がタブレットから遠隔操作を行い、接客対応体験を実施した。</p> <p>日時)12月13日 19時~22時 場所) 宍粟市バージャーニー 活動内容) 宍粟市にあるバージャーニーという居酒屋にオリヒメを設置し、姫路市内在住の障がい当事者の方がタブレットから遠隔操作を行い、接客対応体験を実施した。</p> <p>○教育部門 ※当初計画していたオリヒメ操作講師を招集しての教育部門開催については、操作講師として予定していたオリイ研究所の担当講師との日程調整が困難であったこと、飾西高校様からのオリヒメを用いた活動を行ってみたい旨の希望をいただいたことを踏まえ、オリヒメレンタル1か月を教育部門でも行うこととした(1月)。また、昨年度行った石垣市立石垣第二中学校との交流会については日程調整が難しく中止となり、その代わりに新たに事業として追加された姫路飾西高校でのオリヒメ活用の折に、校内でのワークショップ等を企画することとした。</p> <p>日時)1月24日 場所) 姫路市総合教育センター 校外学習(工場見学での活用) 活動内容) 姫路市総合教育センターとの連携により、発達障害を持たれた方で校外学習に参加でき</p>

	<p>ない当事者の方を対象に、校外学習で工場見学へ行く際に学校の先生がオリヒメを持参し、当事者の方は自宅からタブレットで参加。それにより、遠隔での校外学習参加を実現した。</p> <p>日時)1月31日 場所)学校法人姫路文化学園 姫路福祉保育専門学校 活動内容) 介護領域を目指す学生、外国人学生を対象に地域福祉社会においてオリヒメを活用していくためのワークショップ、操作体験会を開催した。 ※計画では、山田公民館でのイベント開催を予定していたが、山田公民館が改修工事のためWi-Fiが使用できないため、事業変更することとした。</p> <p>日時)2月5日 場所)姫路飾西高校 活動内容)アクリエひめじで行われた「STEAM 探求科 探求発表会」発表会にて、会場受付にてオリヒメを活用した。飾西高校の学生が、教科書で取り上げられていた遠隔ロボット「オリヒメ」について事前にオリヒメについて学んだこと、どんな活用ができるか考察した結果を発表した。オリヒメが受付をする役割にも向いていることから、会場受付で実際に活用をした。有士の生徒たち数名。名前や学年をださずにパイロットをし、操縦や対応、接客、コミュニケーションを経験した。校外の施設での学習発表会は、オリヒメを活用するにあたり、受付対応を担当する学生たちと共に、実際に対応係を操縦しながら経験できるよい機会となった。学習発表会中には休憩時間もあり、また、時間がある生徒や来場者が、受付スペースにてオリヒメロボットと会話をしたり、触れ合える環境を提供した。挨拶や日常の話題からはいる会話ができるように、気楽な環境でロボットを通してコミュニケーションをする機会とした。誰がパイロットであるか、知らない場合の会話やコミュニケーションを経験する機会にした。</p> <p>日時)2月5日～2月12日 場所) 姫路飾西高校 活動内容) 引きこもりにより不登校となった方のオリヒメ活用を想定した様々なワークショップを開催。実際にオリヒメでの会話・オリヒメとの会話体験や操作体験したり、オリヒメによるレクリエーションを実施。それにより、学校等の教育場面でのオリヒメ活用について本学生たちによるワークショップを実施。 ※新たに計画を追加した。理由については、オリヒメ活用のチラシ広報を見られ、ぜひ活用したい旨の連絡をいただき、かつオリヒメレンタル期間中であつたため、新たな事業として盛り込んだ。</p>
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載して</p> <p>本事業でオリヒメを活用し、障害当事者や不登校の方々の社会参加、自己実現が可能か協力団体と試行錯誤しながら実施した。まず、就労部門においては、オリヒメを自宅から遠隔操作し接客対応ができるか活用してみた。同団体では、過去に飲食店等での活用経験はあったが、姫路食博という屋外イベントでの活用は初の試みであった。過去の活用方法とは異なり、本イベントでの活用は、複数の来客者を遠隔で同時接客することとなったが無事実施することができた。課題として、オリヒメの操作(首振り機能の操作遅延の問題)、屋外での活用であったためかWi-Fiの接続不良により何度か再起動を要したなどの課題が抽出された。次に、教育部門においては、新たな取り組みとして、姫路飾西高校さん、姫路福祉保育専門学校さん協力のもと学生たちによるオリヒメ体験、オリヒメ活用を行い、地域福祉社会におけるオリヒメの活用についてワークショップを行ったり、引きこもりや不登校になっても地域社会と繋がるツールとして有効であるか話し合い等を行う場を設けた。また姫路飾西高校さんではアンケート集計も行った。そこで出てきた意見として、単に引きこもり等を対象とした活用を想定していたが、通われている学生の中でも大勢の前で話すのが苦手な方にとっては有益な活用ができることが分かり、今後加速する多様な社会において環境面の配慮からオリヒメを活用した自己実現の場が広がる可能性が示唆された。</p>

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月日	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
8月16日	オンライン	事業計画の見直し、日程調整		3人
9月29日	オンライン	就労活動事業計画会議、チラシ作成依頼・アンケート用紙作成		3人
11月23日	姫路市	就労活動 姫路食博でのオリヒメ活用による受付体験 (謝金:オンライン講師①)	オリヒメ操作者:1名 一般参加者:20名程度	2人
12月13日	宍粟市	就労活動 バージャーニーでのオリヒメ活用による受付体験	オリヒメ操作者:1名 一般参加者:5名程度	2人
12月23日	オンライン	就労活動における反省会 教育活動事業計画会議		3人
1月24日	姫路市	教育活動 姫路市教育センターでのオリヒメ活用 (謝金:オンライン講師②)	オリヒメ操作者:1名 学生参加者:20名程度	2人
1月31日	姫路市	教育活動 姫路福祉保育専門学校でのオリヒメ活用 (謝金:オンライン講師③)	9人	2人
2月5日～ 2月12日	姫路市	教育活動 姫路飾西高校でのオリヒメ活用	30名	2人
延べ人数			87	19
実人数			87	3

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
有限会社みすみ	オリヒメを使用するパイロットの選出及び環境提供。教育領域および障害者就労領域におけるオリヒメの活用に関するコンサルティング

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

今回の事業を通じて、様々な社会における障がい当事者や引きこもり当事者の方がオリヒメを活用することで地域へ再び参加していくことができるということが本事業を通じて証明された。一方で今後の事業展開における課題として、オリヒメを操作する操作者(障害当事者、引きこもり当事者)の募集において想定していたほど新たなパイロット希望者がおられなかった。本事業にて参加いただけたオリヒメ操作者の方々については、昨年度の事業において参加され興味を持たれた方、その方がおられる関連施設にて作成した広報チラシが目にとまり参加して下さる方々がおられた。

本事業において、ワークショップ等を通じてオリヒメ操作の体験をしていただく機会は設けることができたため、以降の事業において活かしていきたいと思う。自主財源確保について、本事業を通じて様々な関係機関と連携をとることができた。引き続き、財源確保の軸となるものは助成金、補助金となると思われるが、本事業で関係をもつことができた関係機関からの支援がいただけるよう推し進めて参りたい。

業 報 告 書

事業の名称	ひめじヒューマンライブラリー2024
ふりがな	そらにじひめじ
団体名	そらにじひめじ
事業の枠 ※該当する項目に0をご記入ください。	一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ <u>ウェルビーイング枠</u>
事業の実施期間	令和6年5月1日（水）～ 令和7年2月2日（日）
事業の対象区域 ※該当する項目に0をご記入ください。	中播磨全域・ <u>姫路市</u> ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他（ 地域を問わず ）

目 的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>姫路市は歴史都市、観光都市として多くの人々が訪れます。訪れる人だけでなく、市民の中には多様なマイノリティがいますが、多くの市民はそのことを意識していません。そのため、多様なマイノリティにとって差別や偏見の表出した言葉や態度として降りかかることが少なくありません。また、多様なマイノリティの困りごとに対する無関心や無理解のために、生きづらいと感じる人がいる現状があります。これらの問題は、行政だけでなく、市民レベルで理解の輪を広げる必要があります。そういった現状と課題を踏まえて、ともに市民として暮らしている多様なマイノリティを身近に感じることができる交流イベントを開催しました。ヒューマン・ライブラリーは 2000 年ごろに人権の取組に積極的な北欧ではじまり、今では日本でも各地で行われています。わたしたちは、これを継続して開催し定着させていくことを目指しました。</p>
	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>当日は多様なマイノリティ性(例: 病気や障害を抱えている、性的マイノリティ、外国ルーツ、ひきこもりなど)を持つ人が本となって、数名の借手(参加者)と30分程度の交流セッションを行いました。</p> <p>①65 才のゲイ(高齢化、LGBT、HIV)、②悩める中年既婚男性～ライフヒストリーから～(孤独、過去の失敗挫折、晩婚)、③多様性とは(性自認と性他認、ハラスメント)、④アラフォーになった(ヤング)ケアラー(親の介護、家事、ひきこもり)、⑤失語症とかアイデンティティとか(脳梗塞後遺症、パンセクシュアル、田舎暮らし)、⑥トランスジェンダー差別と戦いに裁判所に行きます(LGBT差別、在留外国人)、⑦マイクロアグレッションは空へ(外国ルーツ、日本社会での生きづらさ、ルッキズム)、⑧REBEL SONG 叛逆の歌(部落差別、人種差別、オキナワ)、⑨マイノリティレポート(ポリアモリー、毒親)、⑩依存症の正しい知識(薬物依存症当事者の友人)の 10 冊(10 人)の本が参加者に向けて語りました。本は借手からのあらゆる質問にも答えました。また遠隔で分身ロボットおりひめを使用した対話もありました。今回は初めての開催であったため、運営スタッフは司書役として本の安全に気を配るのが必死でしたが、参加者の方を誘導したり説明したり、時には対話の時間が延びてしまいそうになったため、本を休めることが難しいと感じました。次回開催時には本の数を多めに用意して、休憩時間やほかの本との対話の時間を設けたいと思います。</p>
事 業 の 効 果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p>
	<p>今回の事業により「ヒューマンライブラリー」という試みがあるということを知ってもらえることができた。中播磨地域以外からの参加者からも自分の地域で開催してみたいとの声もいただいた。2025 年 8 月に尼崎で開催できることにもつながった。運営面では初めての試みであったため改善点は浮かんできたためぜひ次回に活かしていきたい。そらにじひめじでは参加者や本になった人との相互理解が進んだと感じている。</p>

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月日	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
5月		会場の予約(姫路市市民会館2階展示室)		
8月	そらにじひめじ	事業の計画会議(講師の人選)		10
9月	そらにじひめじ	講師との個別ミーティング		
10月	そらにじひめじ	事業の計画会議(広報について)		10
10月~11月	そらにじひめじ	広報作業		
11月	そらにじひめじ	事業の計画会議(当日の進行)		10
12月	そらにじひめじ	事業の準備		3
12月8日	姫路市市民会館 2階展示室	事業の実施	50	20 (講師10)
1月	そらにじひめじ	事後の反省会		15
延べ人数			50	68
実人数			50	20

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

来年度は年2回開催を目指しています。また今回お越しいただいた参加者のご縁で、兵庫県主催「ヒューマンフェスティバル 2025in あまがさき」への出展依頼があり、8月9日(土)に尼崎で開催します。
自主財源について今回は有志でバッジ、キーホルダーを作成し、当日カンパいただいたかたに返礼品としました。次回以降は冊子も自主制作したいと考えています。会場の都合で当日の販売は難しいため、ご寄付やクラウドファンディングの返礼の形を検討します。

事業報告書

事業の名称	こうでらごじゃまぜふえす
ふりがな	こうでら ごじゃまぜ じっこういんかい
団体名	香寺ごじゃまぜ実行委員会
事業の枠 ※該当する項目に0をご記入ください。	一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和 6年 5月 20日 (月) ～ 令和 7年 1月31日 (金)
事業の対象区域 ※該当する項目に0をご記入ください。	中播磨全域 ・ 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他 ()

目的	現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。
	香寺町は、平成の合併により独創的なコミュニティ活動が失われつつある。郊外地域で高齢化が進行している反面ベッドタウンとして子育て世代の流入もあるが、従来からの住民と流入した住民の交流機会が減ってきている。また障がい児・者への理解・啓発活動が十分でないと感じる部分がある。 そのような課題の解決のため ・多世代にわたる住民同士の交流を促進する。 ・パラスポーツや障がい者アートなどを通じて、一般の方にも障がいへの理解と啓発を促す 「こうでらごじゃまぜふえす」イベントを実施・開催した。
内容	具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。
	(1) 内容 ・ パラスポーツ体験 ・ アール・ブリュット展 (障がい者 アート展) ・ 自閉症 アーティストアートパフォーマンス ・ 音楽ステージ (地元中学校や障がい者 アーティストなど) ・ 子育て 相談 コーナー ・ 昔の遊び体験 ・ キッズ 広場 ・ ワークショップ ・ マルシェ ・ フリーマーケットなど (2) 進め方 ・ 定期的に 実行委員会開催 ・ 事前準備と 本番開催 ・ 振り返り (3) 発信方法 ・ チラシ (実行委員と出店者で配布、また自治会を通じて香寺町内全戸約8000枚配布) ・ ポスター (近隣店舗に掲示依頼) ・ SNS など
事業の効果	事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。
	・ イベントの開催により、多世代にわたる住民同士の交流拡大のきっかけを提供できた。 いろんな年代の方々に来場いただき、スタッフや関係団体スタッフ・出店者などと交流することができた。今後の新たな活動へのきっかけになると期待する。 来場者数：1800名 ステージ出演団体：10団体 マルシェ出店者数：31店 ・ パラスポーツや障がい者アートなどを通じて、一般の方にも障がい者への理解と啓発を深めることができた。 ・ 地域や周辺の住民が地域の課題に気づき、そして解決につながるような機会を設けることができた。 ・ イベント実施を実施してみて、新たに発見できた課題がたくさんあった。例えば年に1回のイベントでは交流の拡大を図るきっかけになるかもしれないが、年1回の交流では限界がある。これらの課題を解決するため、今後どのようにするか、例えば小規模なイベントをより高い頻度で開催するなど、具体的に検討して実行に移して行きたい。

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事業内容	参加者数	スタッフ数
6/10	ガスト香寺店	事前打合せ（開催日の検討）	0	5
7/23	香寺公民館	事前打合せ（会場の予約など進捗確認）	0	5
8/9	香寺公民館	事前打合せ（出展内容など進捗確認）	0	7
9/6	香寺公民館	事前打合せ（マルシェ出店者募集など進捗確認）	0	8
9/26	香寺公民館	事前打合せ（会場周辺使用許可申請・広報など進捗確認）	0	6
10/10	香寺公民館	事前打合せ（準備物など進捗確認）	0	7
10/29	香寺公民館	事前打合せ（準備物など進捗確認）	0	7
11/19	香寺公民館	事前打合せ（準備物など進捗確認）	0	7
11/23	香寺体育館	会場設営	12	8
11/24	香寺体育館	ごじゃまぜふえす実施	1800	12
12/1	香寺公民館	振返り・領収書等確認	0	3
延べ人数			1812	82
実人数			1800	12

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
特定非営利活動法人 香里菜福祉会	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント実施に当たるアドバイスと広報協力 ・イベント当日の障害児のサポート

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

- ・地域の交流促進や課題解決に取り組める「ごじゃまぜネットワーク」の構築を図る。
年に一度のイベントではなく、もう少し高い頻度での交流会を開催することで、「ごじゃまぜネットワーク」の維持・拡大に取り組む。
- ・「ごじゃまぜネットワーク」による交流から、近隣事業者・企業などとの連携拡大を図り、コミュニティビジネスとして事業化を図る。また企業などからは地域づくり活動を通じた協力金などの獲得を目指す。

事業報告書

事業の名称	戦国の城史跡の歴史を学び置塩城史跡の保存継承事業
ふりがな	おきしおじょうせきをきしょうするかい
団体名	置塩城跡を継承する会
事業の枠 ※該当する項目に〇をご記入ください。	一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和6年 4月13日(土) ～ 令和7年 2月28日(金)
事業の対象区域 ※該当する項目に〇をご記入ください。	中播磨全域 ・ 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他 ()

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>播磨地域における置塩城の役割や赤松家と将軍家の関わりなど、伝承されてきた知識や歴史話が高齢化および歴史や史跡に対するの興味が希薄傾向になっている状況から次世代への継承が困難になっており、置塩城跡での史跡ボランティアガイドの実施や学習会を通じて、中学生や若年層の次世代に地元歴史の継承を図った。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>姫路市では世界遺産である姫路城の存在や市行政のバックアップによる姫路城PRが広く活発な状況である一方、姫路市北部地域では高齢化の進行で若年層が少なく、地域歴史を伝える機会の減少など歴史伝承が民間力や人づてに頼っている状況にある。</p> <p>本事業の取り組みで県による補助活動もあり、昨今では中世山城PRとして「山城GO」アプリへ置塩城反映など盛り上げに取り組んでいただいているところであるが、地域としても将来的にも播磨地域最大の貴重な置塩城PR活動を更に展開していく必要があり、以下の活動内容を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生や小学生といった次世代への歴史伝承。 ・会員相互の育成、学校教育とのタイアップへの協力活動として学校と置塩城まつり実施時のボランティアガイド実施計画を協調することで文化継承やガイドノウハウ伝承への取り組み。 ・近年の山城ブームを活かし、御城印配布、置塩城グッズPRなど来城者増加PRへの取り組み ・ボランティア活動の実施や史跡保存活動をSNS活用し全国的知名度アップへ向けた情報発信。
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①会員相互の勉強会や姫路市立公民館文化講座として「置塩城歴史講座」の開催を実施し伝承活動ができた。 (原則1回/月… 座学時:置塩公民館、現地時:置塩城、兵庫県内他城) ②地域ボランティアガイド要員育成の観点で、経験豊富な地域住民者などから若い世代へのボランティア要員育成研修会の開催。 ※地元連合自治会、地元住民へ当時の播磨地域における置塩城の存在の理解、世代を超えた文化の継承活動への取り組みへの協力をお願いし、活動の連携実施。 ③地域の小中高等学校への情報発信を行い、夢前地域をはじめ播磨地域の歴史への興味醸成を図る。 ④地元置塩中学校(全校生徒登校日へ移行)の全生徒が置塩城まつりへ参画し地域歴史の勉強や地域社会との関わり、地域行事の企画運営など社会教育の実施ができ、郷土愛を育む活動となった。 ⑤置塩城について全学年が置塩城跡の歴史や播磨地域における役割など知識習得に役立つ現地ガイド方法の伝承ができた。 ⑥バス研修では、山城や歴史教材の豊富な場所で県内の城学習会あるいは現地ガイド実施活動者や団体との意見交流を通じ、ガイドスキルの向上や交流会参加一般者の山城学習の実施できた。 ⑦置塩城跡の保存状況把握を目的に遺跡の記録を行い、異常気象や獣害による遺跡の変化を残し、文化遺産の保護や変動抑制の記録保存を行った。 埋蔵文化財センターからも、資料提供を受けるなど史跡保存活動へ貢献できた。

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事業内容	参加者数	スタッフ数
4月14日	置塩城	史跡調査	10	2
4月21日	置塩公民館	置塩城まつりガイド計画会議	3	3
5月19日	置塩城	置塩城登山整備	3	5
6月16日	竹田城 歴史資料館	・他城の山城見学会 ・歴史資料館にて勉強会	19	3
7月5日	置塩中学校	置塩城まつりボランティア活動勉強会	20	3
7月21日	置塩公民館	置塩地区史跡ガイド勉強会	12	2
8月18日	置塩公民館	置塩城ボランティアガイド資料作成会	6	3
9月22日	置塩公民館	置塩城まつりガイド担当住民の方たちと資料作成会	6	3
10月6日	置塩城周辺	置塩城まつりPR用のぼり設置	33	3
10月19日	置塩城周辺	置塩城まつり前日準備	89	3
10月20日	置塩城	置塩城まつり	95	3
11月9日	置塩公民館	置塩地区歴史講座	6	3
11月17日	置塩公民館	置塩城まつり反省会	6	3
12月15日	書写山	書写山円教寺太閤屋敷ツアー	6	2
2025年 1月19日	淡路島	他城(洲本城)ガイドツアー実施	16	3
延べ人数			330	44
実人数			95	5

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
置塩城まつり実行委員会	置塩城祭り維持運営

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

以下の取組みを導入検討するものの財源確保へシフトすることによる来城者鈍化状況見合いで再検討の必要。

- ・新たなグッズ作成販売
- ・団体ガイド時のガイド料
- ・講習会や勉強会の参加料

事業報告書

事業の名称	汐入川の清掃と環境学習
ふりがな	しおいりがわをきれいにするかい
団体名	汐入川をきれいにする会
事業の枠 ※該当する項目に〇をご記入ください。	一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ <u>環境配慮枠</u> ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和6年4月7日(日) ～ 令和6年12月26日(木)
事業の対象区域 ※該当する項目に〇をご記入ください。	中播磨全域・ <u>姫路市</u> ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他()

目的	現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。
	<ol style="list-style-type: none"> 1 汐入川の自然環境保全する 2 ゴミのあふれる状態を改善する 3 さらに豊かな生物多様性を次代に引き継ぐため、子どもたちに自然環境学習の場とする 4 これらの活動をとおして地域住民の交流を図る 5 校区を越えたつながりのきっかけの場とし、地域の活性化を狙う
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 毎月2回川に入り清掃活動を実施 2 子どもを対象にした自然観察活動を実施 3 昨年に続き中学生トライやるウィークの受け入れ実施(大津・朝日中学校) 4 新規に広畑中学校受け入れた。 5 小学生、中学生によるポスター等の作成 6 他団体(太子町川島地区)との、川の清掃、保全等の取り組みで連携を図った
	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 トライやるウィークの受け入れ(3中学校)実施した。 2 大津中学校1年生対象の「汐入川をきれいにする会の活動事例発表」実施 2024年11月25日(月)大津中学校体育館 約120名 約30分間 3 中播磨地域ビジョンフォーラム 2024年12月18日(水)活動事例発表 約10分 労働会館 4 はりま勝原の花壇にネームプレート作成(朝日中学) 5 大津公民館だよりにより取り組み状況掲載された
事業の効果	

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月日	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
4～11月	汐入川	月2回(原則第1・3日曜日)川に入って清掃活動 ゴミ袋数 144袋		のべ42名
4月7日	自治会館	6年度総会	17名	9名
6月3日	汐入川、 会館	広畑中学校トライやるウィークの受け入れ	7名	5名
6月6日	同上	朝日中学校トライやるウィークの受け入れ	5名	4名
6月11・12	同上	大津中学校トライやるウィークの受け入れ	2名	5名
8月2日	同上	西土井子ども会自然観察会	18名	5名
11月25日	大津中学校	汐入川をきれいにする会の活動事例発表	117名	3名
12月1日	自治会館	汐入川をきれいにする会活動報告会	26名	10名
12月18日	労働会館	中播磨地域ビジョンフォーラム	48名	2名
先進他団体見学は、近隣の訪問先探すと日程が調整しきれず今年度は実施できなかった、				
延べ人数			240名	85名
実人数			238名	32名

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
西土井自治会	総会、報告会、自然観察会、中学校トライやるウィークの受け入れ等の連携・協力
西土井子ども会	総会、報告会、自然観察会、ポスター作成等の協力
西土井シニアクラブ	総会、報告会、自然観察会、中学校トライやるウィークの受け入れ、歴史資料準備等の連携・協力

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

- 1 川に入っての清掃活動の継続、若手へのはたらきかけ
- 2 自然環境学習の継続実施
- 3 トライやるウィークの受け入れ継続
- 4 無駄を排除し自前でできることを検討する

事業報告書

事業の名称	地域住民参加型 稲作体験プロジェクト
ふりがな	てらこやおおやま
団体名	寺子屋青山
事業の枠 ※該当する項目に0をご記入ください。	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 ・ <input type="checkbox"/> 銀馬車枠 ・ <input type="checkbox"/> 環境配慮枠 ・ <input type="checkbox"/> 子育て枠 <input type="checkbox"/> 万博推進枠 ・ <input type="checkbox"/> ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和6年5月1日(水) ~ 令和7年1月28日(火)
事業の対象区域 ※該当する項目に0をご記入ください。	中播磨全域 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 姫路市 ・ <input type="checkbox"/> 神河町 ・ <input type="checkbox"/> 市川町 ・ <input type="checkbox"/> 福崎町 その他 ()

目的	現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。 ・地域に存在している自然を活用し、実体験を通じて自然の恵み、そこに暮らす人々との触れ合いを通じて、連帯感や世代を超えた繋がりを実感できる地域づくりを行った ・遊休耕作地を利用し、稲作の実体験を実施 ・お米が収穫できるまでの過程をイベントとして企画し、子育て世代に限らず参加者を募り共に育てていく活動を行った。
内容	具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。 ・稲作活動 (1)こども参加型稲作体験企画の実施 田植え、稲刈り、収穫、しめ縄づくり の4つのイベントを企画し参加者を募った (2)進め方 ・田植え:手作業による田植え体験 及び 泥んこ遊び体験 を行った ・稲刈り:鎌を使った稲刈りをした ・しめ縄づくり:お正月飾りを親子で挑戦した ・竹馬作り:しめ縄作りイベントと同時に廃材、竹を利用し竹馬作成と竹馬乗りの体験を実施した (3)発信方法 ・チラシ作成 配布 (小学校、幼稚園、保育園) ・SNS(Instagram)によるイベント告知、活動状況の公開
事業の効果	事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。 田植え 稲刈り しめ縄作り と打ち上げ花火的なイベントではなく季節の移ろいを感じながら継続性のある活動を通じて地域の人々との交流を深めた。 今回2回目の開催であることも 継続性のある活動の証左であると考えられた。 次回からは、このような助成事業に頼ることなく継続して活動できるような人材育成と地域の理解と協力を得られるような活動になりつつあった。 田植えに参加された方々は、その後のイベントにも継続して参加して頂けた。 この事実は、大変意義深いことだと認識している。 つまりこのイベントの狙いでもある継続性の実現が体現できたことは大きな成果であると思った。 最後のイベントである「しめ縄作り」も指導して頂ける人を地域住民の方をお願いした。 前回参加者からは、指導者の方々との再会を喜びあい、繋がりの強さを感じた。 と同時に、我々スタッフもしめ縄作りの技術を受け継ぎ継承していくべく指導を受けた。 今回新たに竹馬作りも企画し、補助を受けながら竹馬に乗る体験も行った。(写真参照)

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事業内容	参加者数	スタッフ数
5月5日	事務局	実施計画作成		10
5月11日	現地	田植え準備 苗 肥料準備等		12
5月20日	小学校他	イベント案内チラシ配布		2
6月15日	現地	田植え体験	33	12
10月19日		稲刈り体験(雨天順延)		10
10月20日	現地	前日雨天中止(順延)したが少しでも稲刈り体験をしたいという希望者の体験を実施した(3家族10名) 規模縮小(稲刈り面積縮小、時間短縮)して実施	10	8
12月15日	現地(教専寺)	しめ縄作り 及び 竹馬作り 竹馬乗り体験	20	15
1月25日	事務局	反省会		10
			延べ人数	79
			実人数	38

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
あおやま1000にんかい 青山1000人会	田植えイベントサポート しめ縄作り指導サポート

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

事業規模の拡大縮小を 参加者の人数を考慮して柔軟に対応する。
しめ縄作りなどの技術継承を行い 指導料などの費用の抑制を実施する。

事業報告書

事業の名称	播磨の食文化を伝える事業
ふりがな	りまのしょくぶんかをつたえるかい
団体名	播磨の食文化を伝える会
事業の枠 ※該当する項目に0をご記入ください。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">一般枠</div> ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和 6年 4月21日(日) ～ 令和 7年 3月 2日(日)
事業の対象区域 ※該当する項目に0をご記入ください。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">中播磨全域</div> ・ 姫路市 ・ 神河町 ・ 市川町 ・ 福崎町 その他()

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>食文化の衰退を食い止め伝承を継承することは、豊かな社会を築くことにつながると考え、人と人が触れ合いながら作る楽しさや食べる喜びを実感できる「料理教室」をミニ講話や座談会を取り入れながら開催し、幅広い年齢層を対象に「食文化」の大切さを共に考え、この食文化伝承の実践の輪が、個人から地域へと広がることを目的とした。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>私たち「播磨の食文化を伝える会」は、今年度から「まちの学校(住民の住民による「学び」「活動」の場づくり)」に参加した。会の活動については、「まちの学校」を通して広く広報を行い、その中で子どもを対象として「子ども料理教室」も取り入れ、さまざまな年齢層を対象として広報を行った。活動内容としては、地域の伝統的な食材を使用した伝統料理、行事食、季節特有の料理等をテーマとした料理教室とミニ講話、および参加者との情報交換を行った。 また、食文化を継承するための座学、試作調理等も実施し、メンバーの資質向上を行った。</p>
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p> <p>今年度から「まちの学校」に参加して社会に広く呼びかけることで、さまざまな年齢層からの参加があり、継続しての参加者もあった。 参加者は地域で生産された食材を利用することで、生産・加工・処理・保存等の基礎知識を確認することができた。また、伝統的な調理法を学び情報交換することにより、地域の伝統的な暮らしを大切にして食文化を伝える大切さを共有するための一助となった。 毎回の情報交換も活発に行われ、個人から地域へと広がる可能性を感じられ、「食文化」の伝承が期待できると思われた。 また、「播磨の食文化を伝える会」のグループの活動において、新たな視点で振り返ることができたと同時に、活動メンバー自身の暮らしを多様な面から見直すきっかけとなった。</p> <p>「播磨の食文化を伝える会」の声を「まちの学校」を通して発信し続けることが、地域社会への「食文化の継承」につながると思われる。本会にとって「まちの学校」での形態実施は初年度であったため、今後の課題として実施内容、運営等の評価、検討を行い、参加者をさらに拡大する方策について模索して次年度へ継続していきたいと考えている。 また、国・県・市町・各種団体が取り組んでいる「食文化」に関する情報収集を心掛け、可能な範囲で参画していきたいと考えている。</p>

事業の経過

事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。

月 日	場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
4月21日	城の西公民館	事業説明と事業計画	15	6
4月27日	コープこうべ共同購入センター福崎	料理教室「和食の基本～だし～」	13	4
5月12日	城の西公民館	伝統料理の学習～書籍、情報交換等～	14	6
5月25日	コープこうべ共同購入センター福崎	料理教室「春の献立～たけのこ～」	11	4
6月22日	コープこうべ共同購入センター福崎	料理教室「保存食～梅干し仕込み～」	16	4
7月27日	コープこうべ共同購入センター福崎	料理教室「夏の献立～あなご、ゆうがお～」 「保存食～かんぴょう作り～」	17	4
7月28日	コープこうべ共同購入センター福崎	子どもの料理教室「一人で作る一汁一菜」	6	4
8月18日	城の西公民館	「体の仕組みと栄養」保田茂氏	12	5
9月8日	城の西公民館	伝統料理試作	13	5
9月28日	コープこうべ共同購入センター福崎	料理教室「秋の献立～栗、里芋～」	16	4
10月26日	コープこうべ共同購入センター福崎	料理教室「行事食～鯖寿司～」	10	4
11月10日	城の西公民館	播磨灘の魚料理教室「旬の魚～ひらめ～」	10	6
11月23日	コープこうべ共同購入センター福崎	料理教室「伝統野菜～れんこん～」	9	4
12月1日	城の西公民館	納豆作りと講義「納豆菌について」保田茂氏	13	5
1月25日	コープこうべ共同購入センター福崎	料理教室「冬の献立～乾物を中心に～」	10	4
2月22日	コープこうべ共同購入センター福崎	料理教室「発酵食品～みそ仕込み～」	18	4
3月2日	城の西公民館	反省会	17	5
延べ人数			220	78
実人数			45	9
事業計画からの変更点...7/14 佐々木なお子氏の講義は、講師の都合で中止。 7/28 子ども料理教室を追加。8/18←8/11、9/8←10/20、12/1←12/8				

連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。

協働先	協働内容
賢明食サークル	伝統料理、和食についての学習 播磨の食文化について情報交換

今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。

今年度から試みた「まちの学校」の事業を中心に、地域の団体等や関係者へのPR・その他ショートスピーチ形式での情報提供の機会を見出し、SNSの活用等の積極的な発信を検討し、地域の食文化を伝承する思いを持つ共感者の発掘を続けていく。現在継続中(新規を含む)の参加者については、おのおのの特技を発揮させてそのハウツウ等を活かすことで、事業の共同者として育成していく。

食材の負担については、原則参加者としているが、フードバンク等を参考にシステムの構築を検討するために情報収集を行い、地域や自家で生産される食材の無償提供や寄付、乾物・加工品・保存食などの一定期間の保存可能な食材のストック等、広く住民の理解と協力が得られるように取り組む。

事業報告書

事業の名称	空き家見学と有機農業体験のツアー 及び 日帰り移住体験ツアー
ふりがな	いっぽんしゃだんほうじん かみかわいじゅうていじゅうさぼーとせんたー
団体名	一般社団法人 かみかわ移住定住サポートセンター
事業の枠 <small>※該当する項目に〇をご記入ください。</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 ・ 銀馬車枠 ・ 環境配慮枠 ・ 子育て枠 万博推進枠 ・ ウェルビーイング枠
事業の実施期間	令和6年5月1日(水)から令和6年12月13日(金)まで
事業の対象区域 <small>※該当する項目に〇をご記入ください。</small>	中播磨全域・姫路市・ <input checked="" type="checkbox"/> 神河町・市川町・福崎町 その他()

目的	<p>現状や課題に対する方向性や解決方法等、事業実施で目指したところを分かりやすく記載してください。</p> <p>前回、中播磨地域づくり活動応援事業の補助を受け、令和5年10月に実施した「空き家見学と有機農業体験のミニツアー」では3組7人の方の参加があった。参加者からアンケートを徴取したところ、満足度が高く、次回へ期待する声があった。これを踏まえて、引き続き、神河食と農を考える会と連携しながら、有機農業への意識醸成、取組への関心を高めるとともに神河町の人口流入の増加を図ることを目的とした。</p>
内容	<p>具体的な活動内容、取り組み内容を分かりやすく記載してください。 特に、今年度新たに実施した取り組みがあれば記載してください。</p> <p>今年度については、「空き家見学と有機農業体験のツアー」に加えて、「日帰り移住体験ツアー」を実施した。「空き家見学と有機農業体験のツアー」については10月4日に実施し、阪神圏を中心に6組11名の参加があった。当日は町内の空き家物件を2軒見学し、現地での説明のほか、住宅取得に関する補助制度の情報提供、地域に関する事柄について参加者に案内を行った。</p> <p>「日帰り移住体験ツアー」については7月、8月、9月、12月の神河有機農業教室にあわせ募集を行った。7月には神戸市から1組2名の参加があった。参加者は以前から空き家を探されていたため、空き家物件の見学と地域の自治会・付き合いについて地域代表と面談を行い、有機農業教室の体験作業(ビーマン・ナスの整枝剪定)を行った。</p> <p>いずれについても、参加者の満足度がおおむね高く、有機農業への関心の高さが伺えた。 また、7月5日の日帰り移住体験ツアーの参加者については、実際に農地付き物件の購入が決まっており、移住促進の契機となった。</p>
事業の効果	<p>事業を通じた地域社会への影響、ノウハウの蓄積、団体の活性化等の効果について具体的に記載してください。</p> <p>本事業を通じて、神河町の有機農業への取組がさらに周知され、また、SCにおいても参加者における有機農業への関心の高さや、有機農業への理解が深まった。神河町においては、地域住民からの有機農業への取組を進めてほしい要望に応えるべく、学校給食に有機栽培の作物を取り入れる実証事業が令和6年度から始まった。このことから、有機農業への関心はこれからもなお一層高まるものと思われる。</p>

事業の経過					
事業計画の実施段階から事後の反省会までの日程、場所、事業内容、参加人数・スタッフ数を時系列で記載してください。					
月日	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数	
5月1日	神河町内	企画打合せ(事務局・神河食と農を考える会 打合せ)	0人	4人	
5月10日	神河町内	有機農業教室にてサツマイモ定植(10月4日ツアー準備)	0人	2人	
7月1日	神河町内	10月4日実施「空き家見学と有機農業体験のツアー」 昼食提供依頼:「古民家カフェ&オムライスのお店 BECAUSE」(神河町栗賀町)	0人	1人	
7月5日	神河町内	日帰り移住体験ツアー:神戸市からの移住相談者対応と有機農業教室での体験作業に参加	2人	1人	
7月5日	神河町内	企画打合せ(事務局・神河食と農を考える会 打合せ)	0人	2人	
8月2日	神河町内	日帰り移住体験ツアー:※参加者なし	0人	0人	
8月5日	神河町内	10月4日実施「空き家見学と有機農業体験のツアー」:先輩移住者(足立様)へ参加依頼	1人	1人	
9月6日	神河町内	日帰り移住体験ツアー:※参加者なし	0人	0人	
9月19日	神河町内	10月4日実施「空き家見学と有機農業体験のツアー」:先輩移住者(足立様)との事前打合せ	1人	2人	
9月20日	神河町内	10月4日実施「空き家見学と有機農業体験のツアー」 昼食注文:「古民家カフェ&オムライスのお店 BECAUSE」(神河町栗賀町)	0人	1人	
10月3日	神河町内	10月4日実施「空き家見学と有機農業体験のツアー」:事務局事前打ち合わせ	0人	4人	
10月4日	神河町内	「空き家見学と有機農業体験のツアー」実施: 町内の空き家物件見学と有機農業体験作業(サツマイモ収穫、ダイコンの間引き)の実施	11人	5人	
10月11日	神河町内	「空き家見学と有機農業体験のツアー」お礼	0人	2人	
12月6日	神河町内	日帰り移住体験ツアー:※参加者なし	0人	0人	
12月13日	神河町内	SC 振り返り会	0人	3人	
※11月8日		※予定していた日帰り移住体験ツアーについては、別の移住事業を企画したため、実施しなかった。	※	※	
延べ人数			15人	28人	
実人数			14人	5人	
連携した協働の相手先名と協働内容を記入ください。					
協働先			協働内容		
かみなわしよく、のう、かんがえるかい 神河食と農を考える会			神河有機農業教室及び SC 主催による空き家見学と有機農業体験のツアー		
今後の事業の展開や自主財源確保の取り組みについて記載してください。					
次年度においても同様の企画を引き続き行うこととし、財源については、参加者からの費用負担を求めることを基本に、実施することとする。					